

と き：平成19年(2007年)2月22日(木) ところ：東京大学山上会館

## 第46回定時総会資料(1)

目	次
1. 平成18年度事業報告 .....	1
2. 平成18年度収支計算書総括表 .....	31
3. 平成18年度正味財産増減計算書総括表 .....	32
4. 平成18年度貸借対照表総括表 .....	33
5. 平成18年度財産目録総括表 .....	34
6. 証 明 書 .....	37
7. 平成18年度財務諸表(一般会計) .....	39

**SICE**<sup>®</sup>

社団法人 計測自動制御学会

## 2006（平成18）年度事業報告

### I 概況

#### （一般事項）

2006年度は、SICEの社会的使命を踏まえ、激変する環境動向に柔軟に対応すべく2005年度に検討された事業計画を実現するために、以下のような具体的な活動を展開した。

#### 1. 新体制と産業界新方針への対応

産業界からの学会活動への積極的な参画を強化することを決定し、具体的に、産業界会員増強、SICE企画・行事や研究会・委員会への積極的な参加、および産業界からの理事候補者を増員させるなどの新方針に基づいて、具体的な施策の検討と実施を行った。

#### 2. 理事会新運営方法への対応

理事会を効果的・効率的に運営するために、審議議案の種類を改定した。また、委任状を廃し、各議案についての賛否を事前に表明する運用にした。

#### 3. 文科・経産両省の現地検査年

文部科学省現地検査（平成18年（2006年）5月17日）、経済産業省業務・財産状況検査（平成18年（2006年）11月29日）が実施された。検査のための資料を整理し、指摘事項について改善を行った。具体的には、借入金の規程制定、委任状から議事事前賛否への変更、取引書類の義務化など、指摘事項についてはすべて対応した。なお両省からの正式評価通知では良好という総合評価であった。

#### 4. SICE-ICCAS2006 関連対応

SICE-ICCAS2006を、SICE Annual Conferenceとして初めて海外で開催（2006年10月18日～21日、BEXCO（韓国））し、1,433名の参加者、1,228編の採択論文を集めて、成功を収める。これにより、SICEを、計測・制御・システム情報分野におけるアジアの中核学会としての位置づけるという目的に向かって大きく近づけることができた。また、今後のSICE Annual Conferenceの開催地・時期、および、組織について最終的な結論を得た。

#### 5. SICEプロセス塾発足への対応

プロセス制御技術者の育成が急務であることを認識し、プロセス制御技術者100人育成計画を実行に移した。

#### 6. 文科・科博オーラルヒストリー開始への対応

文部科学省特定領域研究「日本の技術革新—経験蓄積と知識基盤化—」の研究課題「オーラルヒストリーによる戦後技術の調査研究—電気技術について—」に協力し、ヒアリング対象者5名を選定し、第1回目のヒアリングを行った。

#### 7. 学会運営モデル新システムの立上げ推進

学会モデル委員会・IT委員会を中心に、学会運営モデル構築の方針にしたがって、昨年に開発したシステムを拡張・改良し、学会運営モデル新システムの完成と円滑な業務の移行を推進した。各種学術講演会開催支援、学会誌編集支援、論文集支援、会計支援、Annual Conference支援システムの開発、ならびに、会員データベースシステムの開発を行った。

#### 8. 知的財産のアーカイブ整備

IT委員会を中心として、SICE 50周年に向けたDVD出版、および学会運営モデルシステムからのダウンロードを想定したアーカイブ整備の一環として、過去の論文誌、学会誌情報の電子化に一部着手した。

#### 9. SICE 将来ビジョンの具体化

将来ビジョン委員会を中心に、組込み・ハイブリッドシステム（EHS）調査研究会およびSICE City（社会生活空間の創造を目指した計測・制御・システムによる新しい都市創造）委員会から、「どこにいても『繋がる』安心システム研究部会」と「人間計測・誘導技術を用いた安全安心社会構築研究部会」の新しい2つ研究部会を立ち上げた。さらに、「先端未踏分野開拓」の具体化の検討を始めた。

#### 10. 部門活動の推進

先端融合部門に時限付で部会の設置を認め、部門ロゴの制定を行った。部門の枠を越えた連携により、特定分野の一層の活性化を図る試みとして、ライフサイエンス系部会連携を行った。また、部門間交流を推進するため、SICE2007における部会活動紹介セッションの企画を推進中である。

#### 11. 英文論文集発行推進

2005年度の英文論文誌WGの答申に基づき、英文論文集委員会（担当理事を新設）による具体的発刊に向けての準備を軌道に乗せた。

#### 12. 学会関係の強化

横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）の活動を積極的に支援するとともに、将来のあり方についての検討を開始した。また、国内・海外の学術団体と各種の共催、協賛、後援を行った。

### 13. 会員増強と活動活性化ための努力

学生・賛助会員に向けての行事参加費のサービス拡充、計測制御技術の幅広い認知のための講習会、各部門広報委員を中心とした SICE の PR 活動、若手技術者・学生を対象としたチュートリアル講演会などにより、会員勧誘を推進した。また、企業会員の参加を推進するための方策を検討した。

### 14. 会員サービスと教育・啓発活動

事業委員会を中心に、SICE Week 2006 開催、第 49 回自動制御連合講演会協力、SICE 標準・規格に関する委員会作業など、会員サービスの拡充と非会員に対する教育・啓発活動を行った。

### 15. 会員に対する教育・認定事業の推進

教育・認定委員会を中心に、CPD WG、計測制御エンジニア WG、技術者能力開発(PDE)協議会対応 WG、JABEE WG による検討と活動を行った。

### 16. 会誌の初の翻訳・出版許諾契約（韓国：尖端（CHOMDAN）社）

韓国の出版社 尖端（CHOMDAN）社による、本会会誌「計測と制御」記事の韓国語翻訳転載（定期的）について、出版許諾契約を締結した。

### 17. リスク管理、倫理綱領・行動規範の検討

企画委員会、会誌編集委員会、論文集委員会、総務委員会を中心に、SICEの著作物・発表に関するリスク管理についての委員会を立ち上げて、論文集・会誌それぞれの投稿チェックリストの作成、およびSICEの倫理綱領・行動規範の策定の準備に着手した。

### 18. 会員数の推移

2006 年末の会員数を 2005 年末と比較すると下記の表のようになる。2005 年末の対前年比では正会員の減少は 129 名であったが、今年度は同 189 名の減となった。賛助会員では、昨年度は 1 社、1 口の減少（ほぼ横ばい）であったが、今年度は、8 社、6 口減少した。13. 項で述べた会員増強のための活動を強化するとともに、部門・支部における学生会員・賛助会員に対するサービスなどによる会員数の回復に繋がる継続的努力が望まれる。

#### 会員数の推移

	2006年(平成18年)末現在	2005年(平成17年)末現在	増減
名誉会員	24名	23名	1名
正会員	6,442名	6,631名	△189名
学生会員	597名	656名	△59名
賛助会員	206社 260口	214社 266口	△8社 △6口

#### (1) 企画委員会

2006 年度事業計画に対応した企画を推進したが、特に SICE の今後のためには、1)学会連携および国際化の強化を含む SICE の今後 2)会員メリットを高める会員サービスの向上 3)新公益法人に向けた活動と倫理綱領・行動規範（新しい学会のあり方）の 3 つの課題が重要であると考え、2006 年 11 月の拡大理事会でテーマ討議を行った。その結果をフォローしつつ 2007 年度の推進の柱とする。

##### 1. IT時代の学会運営モデルの実施

学会運営モデル新システムの完成に向けたポイントを理事会メンバーと調整を行い、IT委員会、学会モデル委員会に推進を促した。全体的の遅れている件についてのリカバリー方策についても検討を続けている。

##### 2. SICEテクノロジービジョンの具体化

組込み・ハイブリッドシステム（EHS）調査研究会およびSICE Cityの新しい2つの研究部会の作業の推進を図った。また、未踏分野での企画も準備するように促した。

##### 3. 英文論文集の発刊

2006年1月に答申された英文論文誌WGの報告のフォローに着手し、英文論文集委員会（2007年度より担当理事を新設）による具体的発刊に向けての準備を軌道に乗せた。

##### 4. 学会連合の推進

横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）に関しては従来と同様に、その活動を積極的に支援・推進するとともに、将来のあり方についての検討を開始した。

##### 5. 国際協力の推進

SICE Annual Conferenceの国際化のさらなる推進のために、そのあるべき姿と具体的な開催方法についての具体化を企画し、開催地の国内、海外でのバランスなどの一定の結論を得た。

## (2) 会員・広報委員会

会員および組織としての質的増強を中心に担当理事・事務局の検討を数回行った。新しい推進の具体化は2007年度に本格化させる予定である。

会員勧誘の一環として、関東地区の若手技術者・学生を対象としたチュートリアル講演会を行った。本年度で第5回目を迎えた。「-SICEへのいざない- 安心安全な社会へ向けての最新自動車計測制御技術」をテーマに12月4日(月)に東京農工大学小金井キャンパスで開催した、60名を超える学生中心の若手が多数参加し、未来の自動車社会とその計測・制御技術に触れて大いに役に立ったとの感想が懇親会の席上でも寄せられた。今後の入会勧誘も含めて若手会員増強を継続フォローする。

## (3) 学会連合推進委員会

学会連合推進委員会のミッションは、特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)などと協力して学会横断的に活動を実施し、学術文化の向上発展に寄与するとともに、その成果を社会に還元することを目的とする。

平成18年度の報告は次の通りである。

1. 2006年4月26日(火)、東京大学山上会館で開催された横幹連合通常総会に出席した。
2. 2006年12月1日(金)・2日(土)に東京キャンパス・イノベーションセンターで開催された第1回横幹連合総合シンポジウム「統合知の創生と展開を目指して」にSICEの役員が参加した。この新たな横幹連合のめざす方向を考慮して今後の連携を進めて行く。
3. 総合シンポジウムをはじめとして、横幹連合の行事について広報、勧誘をはじめとして積極的に成功に向けた支援を行った。
4. 横幹連合の会誌創刊事業に関して、横断型基幹科学技術振興基金を充当して支援した。

## (4) IT委員会

今年度は、学会モデル委員会と協同で学会運営モデル構築に関する進捗のフォローと、関連する対策の立案を実施した。

また、50周年記念など将来のDVD出版、学会モデルシステムからのダウンロードを想定したアーカイブ整備の一環として、過去の論文集、学会誌情報の電子化に一部着手した。

## (5) 将来ビジョン委員会

### 1. EHS(組込み・ハイブリッドシステム調査研究会)

#### 1) 運営委員会開催

- ・第2回運営委員会(1月31日、SICE会議室):調査項目の検討、イベント立案(フォーラム開催、連合講演会企画セッション)、他学会との棲み分け等議論
- ・第3回運営委員会(4月3日、SICE会議室):ロボットミドルウェア開発状況ヒアリング(産総研・比留川博久氏、神徳徹雄氏)、企業における技術課題紹介・検討(押上委員、和田委員)
- ・第4回運営委員会運営委員会 連合講演会企画セッション内容検討、EHS終了後の形態検討
- ・第5回運営委員会(9月7日、SICE会議室):海外動向(ADHS'06)紹介(潮副主査)、企業における問題点紹介・検討(小島委員、小泉委員)

#### 2) 催事

- ・第1回EHSフォーラム(7月4日、キャンパス・イノベーションセンター):54名出席、潮副主査、藤田担当理事による講演
- ・第2回EHSフォーラム(11月25日、第49回自動制御連合講演会・神戸大):約60名出席、永島晃主査による基調講演、トヨタ・島田道仁氏、東大・石井秀明氏による講演と自由討論

### 2. SICE City

#### 1) SICE City構築 実行委員会

2005年に「SICE City構築」準備委員会の設置が認められ、2006年2月11日に第1回準備委員会、4月8日に第2回準備委員会が開催され、実行委員会に向けての方向性の策定、都市デザインの現状などが議論された。その後、8月26日に第1回実行委員会が開催され、「SICE City構築」の組織体系として、実行委員会の下に「どこにいても『繋がる』安心システム研究部会」及び「人間計測・誘導技術を用いた安全安心社会構築研究部会」が設置された。実行委員会では、安全・安心な社会を実現するために必要な都市デザインに貢献できるSICEの離村や技術を議論するとともにSICE Cityの都市モデルに関する議論を行い、研究部会では、具体的に研究活動を実施しながら、SICEが持つ要素技術などを検討する。本年度は、神奈川県 RT パーク 住宅展

示場での実証実験を共催で開催するなど地域の自治体と連携しながら、SICE City の方向性を模索するとともに、SICE Annual Conference と自動制御連合講演会にて OS を企画した。最後に、実行委員会と研究部会を合わせた全体運営委員会を開催し、来年度の活動計画を検討した。

## 2) どこにいても『繋がる』安心システム研究部会

2006 年度 8 月、理事会において、「どこにいても『繋がる』安心システム研究部会」の設置が承認された。SICE City 構築実行委員会の下で特に『繋がる』をキーワードに通信関連の調査・研究を行う。同年度 9 月、第 1 回会議が東芝本社ビルにて実施され、まずはシーズ側の企業・大学に声をかけて、首都大東京、東大、東京電機大、東工大、電通大、東芝、東京計装、日立、山武、松下電工、横河電機が集結し、各企業・大学がもつ技術の相互理解を開始した。別途、首都大東京内にある産学公連携センターを介して、多摩地区の市行政に参加を依頼し、同年 11 月、第 2 回会議ではニーズ側として八王子市役所へ出席していただき、八王子市の概要から市行政における防犯対策、防災対策に関係した様々なトピックスについて議論を開始した。

## 3) 人間計測・誘導技術を用いた安全安心社会構築研究部会

第 1 回会議を 12 月 11 日に実施し、設置趣意の説明、自己紹介などを行い、活動内容に関する自由討論を行った。具体的には、City の定義やスケール、誘導の手段、第三者評価者の必要性と方法、地下鉄火災の例などについて議論を行い、研究部会の方向性に関する議論を行った。

## (6) 学会モデル委員会

昨年度に引き続き、学会運営モデル構築の方針にしたがって 2005 (平成 17) 年度に開発したシステムを拡張・改良した。

具体的には、各種学術講演会開催支援、学会誌編集支援、論文集集支援、会計支援、Annual Conference 支援システムの開発、ならびに、会員データベースシステムの開発を行った。

## (7) 学会賞委員会

### 1. 論文賞等の選考

論文賞、技術賞、教育貢献賞、新製品開発賞それぞれの候補を選考し、理事会に報告した。この選考にあたっては、部門制度に対応した計測、制御、システム情報、システムインテグレーション、産業応用の 5 分野のカテゴリー(対象案件によっては複数のカテゴリー)で評価した。

### 2. 学術奨励賞の選考

学術奨励賞候補の選考を行い 1 月理事会に報告した。

## (8) 部門協議会

各部門の運営体制が整い、また部門基金・部門表彰等が整備されるなど各部門の活動は一層拡充しつつある。活発な部会・調査研究会の活動や部門大会の盛況などにより事業収益は好調で部門基金化が推進された。部門に対する SICE 本体の期待は年を追うごとに大きくなっている。2006 年度は 7 回の部門協議会を開催し、各部門の活動を更に活発化させると共に、SICE の発展に貢献できる効果的な部門運営体制の検討や、社会の期待に応える新規分野の開拓・推進に取り組んだ。以下、項目ごとに報告する。

【部門活動の活性化と連携】 部門制の主旨に則り、各部門の特性を活かし独自性をもった活動の発展に資する協議会運営に努め、先端融合部門に時限付で部会の設置を認め、部門ロゴの制定を始めるなどした。また分野別技術と分野横断型技術を一層活かせる部門体制の構築や、他学会との連携を深めるための検討を進め、以下の取組みを始めた。

ライフサイエンス系部会連携 各部門に散在するライフサイエンス関連部会の活動を結集して SICE のライフサイエンス分野を一層活性化するため、部門の枠を越えた当該分野の部会が強固な連携を図れる環境構築を開始した。本件は SICE 将来ビジョンの 1 つ「先端未踏分野開拓」の具現化の一環とも認知され、SICE2007 で「生命・医療・健康・福祉と SICE テクノロジー」のテーマのもとでライフサイエンス関連部会の活動を紹介することから始め、1,2 年のうちに他学会とも連携したシンポジウムの開催を目指すこととした。

部会活動紹介セッション より幅広い部門間交流の可能性を探るため、「どのような部会がどのように活動しているのかを知る機会」として、SICE2007 で全部会・調査研究会の活動を紹介するポスターセッションを行うこととした。

【学会内外との積極的協力】 会誌編集、論文集、産業論文等各委員会への委員派遣等、他委員会との協力を積極的に図った。プサンで開催の SICE-ICCAS2006 ではオーガナイズドセッションを通して積極的に参画し、その成功に大いに貢献した。また「レスキュー工学とシステムインテグレーション」をは

じめとする論文特集号により論文集の活性化に貢献した。

【広報活動・会員サービスの充実】全部門がホームページを持ち、各部門広報委員を中心に広報活動を充実させ、SICE 会員増を目指している。SI 部門の共催行事における SICE の冠を付けた賞の継続、学生・賛助会員に向けての行事参加費のサービス拡充、計測制御技術の幅広い認知のための講習会への講師派遣など、SICE の PR や会員増加に向けて様々な試みを実施した。

【IT 運営モデル構築への貢献】現在構築中の IT 学会運営モデルを支援するため、部門行事で積極活用すると共に課題を明らかにし、運営モデルの本格導入に積極的に寄与した。今後もさまざまな行事に適用して、より良いシステムの実現に貢献したい。

#### (9) 国際委員会

計測・制御・システム情報分野におけるアジアの中核学会を目指すという中長期ビジョンのもと、国際委員会は以下の活動を行った。

##### 1. SICE-ICCAS 2006

・本コンファレンスの計画は、2003 年 8 月の SICE Annual Conference 2003 in Fukui の際  
に開催された SICE-ICASE VIP Meeting の席上で、日本側からの問合せに対して、ICASE 側  
より 2006 年夏開催に向けて協力することを決定し、4 つの候補地を検討していることの提案  
を受けて、準備が開始されたものである。

・会期：2006 年 10 月 18 日(水)～21 日(土)

・会場：BEXCO (Busan Exhibition & Convention Center)

・参加者：1,433 名

・論文投稿数：1,407 編(31 カ国)

・採択論文数：1,228 編

・Joint Conference Award として Best Paper Award：14 件、Young Author Award：14 件、  
Student Travel Grant Award：4 件の贈呈を行った。

##### 2. 国際研究集会の主催・共催

依頼された国際研究集会の主催、共催、技術主催/共催、協賛事項に関して審議・承認を行  
った。

##### 3. 海外学術団体との連携

SICE Annual Conference 2007 に対して、IEEE/IES, IEEE/RAS, IEEE/CSS, IEEE/SMC,  
Instrumentation, Systems, and Automation Society (ISA) より共催 (technically  
co-sponsored), IEEE Japan Council, The Institute of Control, Automation and Systems  
Engineers, Chinese Association of Automation, China Instrument and Control Society,  
Chinese Automatic Control Society, IFAC-NMO Japan, IMEKO および電気学会に対し協  
賛依頼を行った。

##### 4. 部門・部会との関係

SICE-ICCAS2006 において、多数の OS(90 件、論文総数 488 編)を提案した。

##### 5. Annual Conference の運営組織についての検討

理事会から、SICE Annual Conference を長期的に見るため、Steering Committee を国際  
委員会の中に設置することが要請され、松野委員長が当面の Chair を務めることで進めること  
とした。

##### 6. SICE2007, SICE2008, SICE2009 の準備

SICE2007 を 2007 年 9 月 17 日(月)～20 日(木)に香川大学で開催することを決定し、実行委  
員会と Steering Committee が協力して準備を進めた。

また、SICE2008 を 2008 年 8 月に電気通信大学で開催することを決定し、準備を進めた。

さらに、SICE2009 に関しては海外開催をも視野に入れ、開催候補地を検討した。

#### (10) 出版委員会

計測・制御テクノロジーシリーズの刊行が継続中であるが、2006 年度は見るべき進捗がなかった。  
2007 年度の早い時期に今後の取り扱いも含めて検討する必要がある。

#### (11) 事業委員会

事業委員会のミッションは、会員サービスの拡充と非会員に対する教育・啓発活動を行うこととし、  
従来からの活動を引き継ぎながら、新しい活動を企画・実施した。

##### 1. SICE Week 2006

SICE-ICCAS 2006 が 10 月 18 日(水)～21 日(土)に韓国釜山市で開催された。SICE は、この機会を利用し、開催地域の中高校生などへの「計測と制御」に関する教育・啓発活動を行うため、10 月 18 日に SICE Week 2006 を開催した。開催場所は、韓国 ICASE の全面的な協力を得て、韓国高校のトップである Korean Science Academy (韓国科学英才高校) および釜山市で有名な私立の海雲臺 (ヘウンデ) 高校にて実施することができた。古田勝久先生、松野文俊先生、ならびに、日本の大学で博士号を取得し、現在韓国の大学や企業で活躍している Sang-Bong Kim 先生、Hakkyung Sung 博士による

- 1) Understanding Phenomena through Real Physical Objects・Controlling Pendulum
- 2) Introduction of Robots in Japan・From Biomimetic Robots to Rescue Robots
- 3) Control of Mobile Manipulator: Theory and Applications
- 4) The Now and the Future of the Intelligent Robot

の講演を行った。2つの講演会は、両校合わせて約 440 名の参加者で盛大な催しとなり、非常に好評であった。

## 2. 第 49 回自動制御連合講演会

従来と同様に第 49 回自動制御連合講演会を 6 学会の共催で 11 月 25 日(土)、26 日(日)に神戸大学で開催された。今回の幹事学会はシステム制御情報学会であった。実施体制は以下の通りである。運営委員会委員長 潮 俊光(大阪大学、担当理事)、実行委員会委員長 太田有三(神戸大学)、実行委員会幹事 玉置 久(神戸大学)。SICE からは例年通り事業委員長が運営委員として参加した。

## 3. SICE 標準・規格に関する委員会

SICE が事務局を担当する JIS 規格 3 件について引き続き見直し作業を行った。特に「自動制御用語」については、英語表記と日本語とのすりあわせを含めて引き続き検討した。

## 4. 日本学術会議の自動制御研究連絡委員会の廃止に対応して

学術会議の中に従来あった自動制御研究連絡委員会を引き継ぐような形として、自動制御連合講演会について長期的に検討する委員会として自動制御連合講演会常設運営委員会を開催するための準備委員会が 2 回開催された。事業委員会からは永井委員(前事業委員長)が出席した。

## 5. 新しい活動に向けて

今後の SICE が果たすべきミッションについて自由に議論を進め、計測と制御に関する啓発手法を議論した。特に企業会員が減少し、賛助会員が減少している現状に対して、計測技術者・制御技術者の魅力や、SICE 会員であることのインセンティブを検討し、拡大理事会の主テーマの 1 つとして議論されるきっかけとした。

### (1 2) 教育・認定委員会

教育・認定委員会では、会員に対する教育・認定事業を幅広く行うこととし、委員会規約を策定して、下記の 4 つの WG を設置し事業活動を具体的に実施した。

#### 1. CPD WG

2006 年度の CPD ポイント申請者は 4 名。審査の結果 4 名とも承認し、会告に従い特典の付与と上位 2 名に対して Annual Conference で、表彰状を授与した。しかしながら申請者は相変わらず少なく、原因は申請方法の煩わしさにあると判断、講習会受講時等に自動申請できる『CPD ポイント管理システム』の構築を行った。本システムは学会運営モデルの中に構築され、本格稼働時から運用される予定である。

#### 2. 計測制御エンジニア WG

①1 月に「計測制御エンジニア試験」を実施、推薦による推薦認定試験を 3 回実施した。②認知度向上を目的に、会誌に今年の合格者を紹介した。③計測制御エンジニア資格を広く社会に PR する目的で、登録計測制御エンジニアに SICE ロゴ入りの名刺をプレゼントした。

#### 3. 技術者能力開発(PDE)協議会対応 WG

本年継続して委員会へ出席し、各学会の教育体制について意見交換を行った。

#### 4. JABEE WG

機械・電気分野審査委員会などに委員として参加し、積極的に提言を行うとともに、SICE 関連分野での受審に不利にならないよう審査員養成を推進した。SICE 関係者で JABEE 審査に協力している会員の名簿管理を行った。第 1 回横幹連合総合シンポジウムで、「横断型科学技術者育成の現状と課題」をテーマとした OS の企画運営に協力した。

### (1 3) 会誌編集委員会

SICE 会員への有用な学術・技術情報・学会情報の提供、会員間の意見交流を目的とし、会誌「計測

と制御」を年12回発行した。また、会員・学生会員・賛助会員へのサービス向上と学会の活性化を目指した活動を計画・実施した。具体的な実施項目を以下に挙げる。

1. 特に企業所属の会員，学生会員のニーズ・シーズに応えるための活動を行った。
  - ・大学所属の会員が，企業所属の会員の要望を取入れながら解説記事を執筆する「産学連携講座」のページを新設し，連載を開始した。
  - ・解説記事の読みやすさを向上するため，図表説明文を長文化することとした。
2. SICE が専門とする学術情報・SICE の活動状況などを適時に発信する活動を行った。
  - ・学術情報を発信するために，特集・ミニ特集の'08年5月号分までを企画中，'07年11月号分までの企画を具体化中である。
  - ・計測制御エンジニア会と連携し，計測制御エンジニア合格者のプロフィールを顔写真付きで紹介するページを新設した。
  - ・アジアへの情報発信のため，韓国尖端社と「計測と制御」記事の翻訳転載契約を締結した。1昨年末時点までで同社より記事40編の転載申請を受けている。
  - ・SICE City 関連の活動を会員へ報告するための連載記事（2008年開始予定）の企画に着手した。SICE City はSICE としての重要活動であることから，特段の扱い方を検討している。
3. 大学所属の会員の情報発信を支援すべく「研究室紹介」のページを復活した。
4. 総務委員会，論文集委員会，事務局と連携し，技術者倫理，知的財産権，製造物責任などの観点から，投稿規程・査読基準などを議論中である。
5. 会誌編集のIT化（学会モデル）システムへの要望をとりまとめ，IT委員会に提出した。
6. 会誌編集を行うために，年6回の編集委員会と，特集号企画についての議論を集中的に行う泊り込み企画会議1回を開催した。

#### （14）論文集委員会

論文集委員会は学術論文を定期発行することが第一の使命である。これを達成するために，適切な査読者の選定，論文査読状況の管理などの定常的な業務を遂行し，当初計画通り定期的に論文集を発行することができた。また，継続して論文集特集号の企画・発行等，投稿論文を増やす努力を進めた。2006年度は2つの企画特集号を計画した。1つは昨年度に引き続きSI部門からの企画特集号である。もう1つは今年度初めて計測部門からの特集号が企画された。これらの特集号は前者が2007年3月号に，後者が8月号に発刊予定である。

論文集委員会の運営としては，部門制に対応した運営を継続した。また，電子メールを活用して，事務局，論文集委員会，著者，査読者などの間での連絡を密にすることで，長期滞留論文をなくすべく，査読プロセスの迅速化を図った。特に，査読遅れの論文に関しては査読者への督促や査読者の交代など適切な対応をとることで，論文を受け付けから採否決定までの期間の短縮を図った。その結果，2006年度投稿された論文の内，採否の決定したものに対しては，投稿論文は平均5.4ヶ月で採否が決定され，半年を切るようになった。投稿論文の61%が半年以内に94%が8ヶ月以内に採否が決定されるようになった。

論文集および論文集委員会のIT化に関しては，論文集委員会の中にワーキンググループを設置し，現在の論文集委員会の業務から考えられる要求仕様をまとめた。そのうえで，担当理事及びシステム開発会社と数回協議し，来年度の論文集委員会のIT化に備えた。また，IT化の移行に伴い，論文集委員会の業務手順書の整備や査読フォーマットの見直しを行った。

#### （15）産業論文委員会

- ・本年度は26件の投稿を得た。うち，12件を採録・Web掲載発行した。2002年創刊よりの総採録件数は，53件となった。
- ・事務局での査読プロセス作業の確実化のための体制強化を行った。
- ・査読効率化のため，論文管理システムを作成し本格的運用に入っている。本システムについては，今後の学会モデル新システムへの移行についても検討して行く必要がある。

#### （16）総務委員会

関連委員会，事務局などと連携して，主に下記業務を行った。

1. IT委員会と学会モデル委員会の拡大委員会に参画し，新学会モデル新システムの完成と円滑な業務の移行について企画・推進に協力した。
2. 国立科学博物館が文部科学省に申請して認められた東京電機大学がとりまとめている日本の戦後の電気技術についてのヒアリング調査とまとめのプロジェクト「オーラルヒストリー」に協力し，



- ヒアリング対象者5名の選定と第1回目のヒアリングを行った。
3. 企画委員会、会誌編集委員会、論文集委員会などと共に、SICEの著作物・発表に関するリスク管理について委員会を立ち上げて検討を開始した。
  4. SICEにおける倫理規程の制定の準備に着手し、企画委員会と協力して2007年の早い時期に原案を作成する予定とした。
  5. 会長直轄のプロセス制御技術者養成塾（3年間、100名育成）の企画と準備委員会の立ち上げを支援した。講師陣のお願いと初年度20名の受講者の募集を行い、18名の応募があった。教材作成、配布を進め、第1回スクーリングを実施した。

#### (17) 支部協議会

支部協議会発足2年目として、下記の活動を行った。

1. 支部協議会共催チュートリアル講演会の実施  
支部主催、支部協議会共催として本年度より実施した。講演会、見学会などを東北支部、中部支部、関西支部、北陸支部、中国支部、九州支部において6件実施した。
2. 学会システム構築に向けた試用  
協力をお願いした支部において、経理システムに対する試用を実施し、使用に当たっての必要事項などを要望した。
3. 支部間の情報横通しの推進  
支部協議会、特別理事懇談会（四国支部一本部意見交換会）を通じ、各支部での活動内容の紹介、それについてのディスカッションを活発に行った。今後の各支部での活動の参考になる。

#### (18) 北海道支部

##### 1. 事業

- ・ 第38回計測自動制御学会北海道支部学術講演会  
平成18年1月26日(木)、27日(金) 北海道大学学術交流会館  
参加者総数:118名、一般講演:71件(10セッション)(道内38件、道外33件)
- ・ 特別講演  
平成18年1月26日(木) 北海道大学学術交流会館  
講演者: 大阪大学・大学院情報科学研究科・教授 赤澤 堅造 氏  
題目: 「生体医工学からみた筋運動制御の魅力」  
参加者: 約60名
- ・ 講演会(2回実施)  
第1回(共催)平成18年3月4日(土) 北海道大学工学部 第2会議室  
主催:北海道エージェントスケジュールプロジェクト  
共催:精密工学会、日本機械学会、計測自動制御学会、情報処理学会、各北海道支部  
講演者: 北海道大学大学院情報科学研究科・助教授 南澤 吉昭 氏  
題目: 「大学研究と企業におけるシステム開発」  
参加者 約40名  
第2回(主催)平成18年11月28日(火) 室蘭工業大学専門棟C棟 C310室  
講演者: 公立はこだて未来大学システム情報科学部情報アーキテクチャ学科  
助教授 鈴木 昭二 氏  
題目: 「着せ替えロボットの開発とミュージカルの実現」  
参加者 41名

##### (e) その他の協賛事業

ロボットトライアスロン

- 札幌開催 9月24日(日) 北海道工業大学 HIT プラザ 参加者 40名  
室蘭開催 10月22日(日) 室蘭工業大学大学会館 参加者 64名

##### 2. 会議

##### (a) 第43回総会

平成18年1月26日(木) 北海道大学学術交流会館

- (1) 平成17年度支部事業報告
- (2) 平成17年度支部会計報告
- (3) 平成18年度支部事業計画および予算案
- (4) 平成18年度支部役員・評議員選任

(b) 役員会 (4回実施)

第1回 (評議員会)

平成18年1月26日(木) 北海道大学百年記念会館

第2回 (幹事会)

平成18年9月26日(火) 北海道大学情報科学研究科4-07室

第3回 (幹事会)

平成18年12月11日(月) 北海道大学情報科学研究科11階会議室

第4回 (評議員会)

(19) 東北支部

1. 研究集会の開催

東北支部創設以来続いている口頭発表形式の研究集会であり、平成18年は、東北大学(第227回)、岩手大学(第228回)、八戸工業専門高等学校(第229回)、秋田大学(第230回)、山形大学(第231回)、日本大学(第232回)、東北学院大学(第233回)において計7回実施した。本研究集会は合わせて92件の発表があり、地域内の研究交流、学会の広報、若手会員の勧誘などの役割を果たした。また、30歳以下の発表者の中で特に優秀な発表を行った者に対して支部優秀発表奨励賞を授与し、平成18年は8名が受賞した。このうち、第231回研究集会までに受賞した者の中で、本部の研究奨励賞受賞経験のない5名は、研究奨励賞候補者として支部推薦した。

2. 講演会他各種行事の開催

平成18年は、5件の講演会・セミナーを共催した。また、平成17年より開催している見学会は、平成18年はチュートリアル講演会の補助を受けて、9月11日に独立行政法人宇宙航空研究開発機構角田宇宙センターの見学を行った(参加者18名、うち学生11名)。

3. 役員会の開催

支部運営の主体である運営専門委員会を6回、役員・評議員・運営専門委員合同委員会を1回、支部総会を1回開催した。

4. 会員勧誘の強化

学会の広報活動を行うとともに、会員の勧誘を行ってきた。特に、研究集会における優秀発表奨励賞受賞者の研究奨励賞への推薦、見学会参加学生への入会案内配布を通して、入会活動を積極的に進めた。

5. 研究集会講演会等の開催回数

研究集会	7回
講演会(共催)	5回
見学会(チュートリアル講演会)	1回
総会	1回
運営専門委員会	6回
役員・評議員・運営専門委員合同委員会	1回

6. 東北支部優秀発表奨励賞受賞者

船本 健一(東北大学)、越田 俊介(東北大学)、福田 誠(秋田大学)、福田 憲一郎(東北大学)、名久井 里美(山形大学)、金涌 佳雅(東北大学)、山縣 貴幸(東北大学)、山本 義春(弘前大学)

(20) 中部支部

	開催日	会合名	種類	会合・行事の内容	場所	参加者
1	1/23(月)	第80回電機計測技術ワーキングセミナー	研究会	「応用が広がるパワーエレクトロニクスとその将来」 (1)「回生可能な電動ハイブリッド自転車のパワエレ技術」 (2)「交流交流直接変換技術とその応用」 (3)「燃料電池車におけるパワーエレクトロニクス技術」	中部大学技術・医療専門学校 6階 大ホール	67名 (3名)
2	1/25(水)	第1回三重地区計測制御講演会	研究会	「愛・地球博向けパートナーロボット開発部」	三重大学講堂(小ホール)	124名 (4名)

3	2/1(水)	第2回三重地区計測制御講演会	研究会	「ハイブリッド自動車」	三重大学講堂(小ホール)	139名(4名)
4	3/24(水)	第1回統合知能メカトロシステム研究委員会講演・見学会	研究会	講演「自律分散システムと画像処理・視覚処理」 三重短期大学上山英三助教授 講演「多関節型マニピュレータを用いたリハビリテーション支援」 三重大学工学部加藤典彦助教授 見学会「本田技研工業(株)鈴鹿製作所」	鈴鹿サーキットランド研修施設あかしや第4研修会場(講演会場) 本田技研工業(株)鈴鹿製作所(見学会場)	24名(6名)
5	4/14(金)	静岡地区講演・見学会	研究会	「Open MRI と支援機器」 「HAPTIC Interface」	つくば東サイト つくば中央第2サイト	14名(6名)
6	5/31(水)～ 6/2(金)	第6回オーガナイズドセッションの提案	研究会	「電機システムへの制御理論応用」	ウィル愛知(愛知県女性総合センター)	約30名
7	6/2(金)	静岡地区講演会・特別講義	研究会	「航空宇宙システムにおける制御系設計」  「福祉機器開発とベンチャー起業」 「福祉とロボット」 「特許と弁理士の仕事」 「マイクロロボットと顕微作業システム」	静岡大学工学部・総合研究棟 総34教室	100名(2名) 22名(1) 22名(2) 24名(1) 29名(1)
8	6/3(土)	第141回教育工学研究会・シンポジウム	研究会	テーマ「こんなテーマで学生実験をしています」	鈴鹿高専 大講義室	18名(4名)
9	7/6(木)	第81回電機計測制御技術ワーキングセミナー	研究会	「電動車両システムとその制御」 (1)「電気鉄道車両の制御システム・制御シミュレーション技術」 (2)「電気自動車の過去、現在と未来」 (3)「電気自動車の新しいモーションコントロールに関する研究」	中部大学技術・医療専門学校 6階 大ホール	65名(4名)
10	7/22(土)	第1回制御理論ワーキングセミナー	研究会	「Linearity versus non-linearity of interconnection structures of dynamical systems: a way to encompass irreversibility?」	名古屋大学工学部1号館 132講義室	22名(11名)
11	8/3(木)	第2回統合知能メカトロシステム研究委員会講演・見学会	研究会	講演「確率的切り替えを伴う線型モデルによる人間行動のモデル化と解析」 名古屋大学大学院工学研究科 稲垣伸吉先生 講演「歩行現象の力学原理から見たヒトの歩行」名古屋工業大	三菱電機株式会社稲沢製作所 本館1F 第11・12応接室	21名(7名)

				学大学院工学研究科 佐野明人先生 見学会 「三菱電機株式会社稲沢製作所」		
12	8/7(月)	第2回制御理論ワーキングセミナー	研究会	『20 Years of Passivity Based Control: From Energy Balancing to Power Shaping』 R. Ortega 先生 (CNRS-SUPELEC)	名古屋大学工学部1号館143講義室	36名 (24名)
13	9/20(水)	第4回統合知能メカトロシステム研究委員会講演会	研究会	講演「宇宙用非化学推進システムの現状」 岐阜大学工学部宮坂武志助教授	岐阜大学工学部F棟7階F709室	19名 (3名)
14	9/22(金)	第3回統合知能メカトロシステム研究委員会講演会	研究会	講演「静的フィードバックによる柔軟アームの制御」岐阜大学工学部助手 遠藤孝浩 先生 講演「フレキシブルアームと人間協調系の制御」名古屋工業大学大学院助教授 森田良文先生	岐阜大学工学部F棟7階F709室	12名 (5名)
15	9/25(月)～ 9/28(木)	静岡地区連続講演会・特別講義	研究会	連続講演会・特別講義(4回) 9月25日(月)「福祉機器開発とベンチャー起業」有限会社アシストシステム 佐々木竜弥氏 9月26日(火)「ダイナミックシステムやメカトロニクスの福祉機器への応用を中心とした教育研究」静岡大学工学部システム工学科 野飼享教授 9月27日(水)「特許と弁理士の仕事」居藤特許事務所 居藤洋之 弁理士 9月28日(木)「マイクロロボットと顕微作業システム」静岡理工科大学理工学部機械工学科 見崎大悟氏	静岡大学工学部総合研究棟 総34教室	25日 22名 (1名) 26日 22名 (2名) 27日 24名 (1名) 28日 29名 (1名)
16	10/27(金)	見学会	見学会	(1)トヨタパートナーロボットショー見学および講演会 (講演者:トヨタ自動車㈱ パートナーロボット開発部 山下主査) (2)「働くロボット展」見学および講演会 (講演者:㈱デンソーウエーブ 技術企画部 小山部長)	(1):トヨタ自動車(株)トヨタ会館 (2):トヨタテクノミュージアム産業技術記念館	27名 (9名)
17	11/3(金)	統合知能メカトロシステム終了企画(講演会)	学術講演会	特別講演「脳情報復号化によるブレイン-マシン・インターフェース」一般講演「人間情報システム工学の研究最前線」	岐阜大学工学部	68名 (14名)
18	11/10(金)	計測自動制御学会中部支部シンポジウム	シンポジウム・講演会	招待講演「人工衛星の姿勢制御:基礎から最近の話題」	上田東急イン	148名 (54名)

19	11/15 (水)	第3回三重 地区計測制 御講演会	研究会	講演「自動車タイヤ空気圧と安全技術」 大久保陽一氏(元)太平洋工業株式会社 技術本部 副本部長)	三重大学工学部28番教室	約100名 (4名)
20	11/18 (土)	第142回教育工学研究会・シンポジウム	研究会	テーマ「こんなテーマで学生実験をしています」特別講演会 「日本の今後のエネルギー」講習会「親子で作るコンピュータ制御のおもちゃ」	豊田工業高等専門学校	22名 (5名)
21	11/20 (月)	教育工学研究会・特別講演会	学術講演会	「日本の今後のエネルギー」講師 中部電力 代表取締役副社長 伊藤 隆彦	鈴鹿工業高等専門学校	45名 (7名)
22	11/20 (月)	光波応用技術講演会	研究会	研究会 講師:名大・西澤典彦 /見学会 量子工学専攻・光量子工学講座・研究室	名古屋大学・量子工学専攻	20名 (3名)
23	11/22 (水)	第4回三重 地区計測制 御講演会	研究会	研究発表会		130名 (14名)
24	11/22 (水)	オープンラボラトリー	見学会	研究室紹介ポスターセッション, 三重大学研究室ツアー	三重大学講堂(小ホール, ロビー)	130名(14名)
25	11/29 (水)	静岡地区講演・見学会	研究会	「触感覚とプロダクトデザイン〜パッケージ・マウス・ハイヒール〜」 「ヒューマノイドロボットの自律性向上のためのVR技術」	産総研デジタルヒューマン研究センター	22名 (5名)
26	12/6(水)	第4回三重 地区計測制 御講演会	研究会	講演「回転装置の振動と振動制御」	三重大学工学部大会議室	約50名 (5名)
27	12/7(木)	第3回制御理論ワーキングセミナー	研究会	「部分空間同定法と変化検出法への応用」	名古屋大学工学部2号館242号室	32名 (11名)
28	12/8(金)	中部支部チュートリアル講演会	チュートリアル	「ドライバー特性を踏まえた車両・システム作り」「運転者の視覚認知機能の解明とモデル化の研究」「民間航空機における Handling Quality 要求とパイロット評価」「予防安全と心理学」	名古屋大学ベンチャービジネスラボラトリー	62名 (25名)
29	12/11 (月)	中部支部講習会 感性工学の応用(シリーズ第3回)	研究会	「製品の感性を数値化するためには」「感性計測による快適性/ストレス評価」	名古屋工業大学23号館	29名 (13名)
30	12/16 (土)	教育工学研究会・講習会	講習会	「親子で作るコンピュータ制御のおもちゃ」	桑名市立日進小学校理科室	5名
31	12/22(金)	光波応用技術研究会「広がる“光”応用技術の新展開」	学術講演会	「様々な産業・科学技術分野におけるLED新応用の開拓」レーザースペックルとその計測への応用」	名城大学タワー75レセプションホール	46名 (4名)

32	12/25 (月)	静岡地区計測制御講演会	講演会	特別講演「Robo One にハマって参戦記」	静岡大学浜松キャンパス	113名
33	12/26(火)	制御理論研究委員会終了企画「学習理論と制御」	学術講演会	「強化学習における大偏差理論の応用サポート」「ベクトルマシンの学習曲線」「ランダム行列の漸近固有値分布とレプリカ法」	名古屋大学工学部 IB館 2F IB大講義室	31名 (15名)

## (21) 北陸支部

以下のような講演会、見学会等を開催した。また支部設立 10 周年を記念して、記念講演、チュートリアル、パネル展示からなる 10 周年記念講演会を実施した。

### 1. 北陸支部総会・特別講演会

日 時：平成 18 年 1 月 16 日 (月) 場 所：ガーデンホテル金沢

「システム方法論の考え方と適用事例」 吉田 武稔 (北陸先端科学技術大学院大学)

### 2. 日本機械学会北陸信越支部講演会 (主催：日本機械学会 北陸信越支部)

日 時：平成 18 年 3 月 9 日 (木) 場 所：信州大学工学部

### 3. 計測自動制御学会北陸支部講演会 (共催：日本設備管理学会)

日 時：平成 18 年 5 月 2 日 (火) 場 所：富山大学

「企業における技術・技能の伝承の取り組み」丸山 正男 (住友電工テクニカルソリューションズ)

### 4. 日本設備管理学会・北信越支部「環境・福祉と設備管理研究会講演会 (主催：日本設備管理学会)

日 時：平成 18 年 6 月 29 日 (木) 場 所：金沢星稜大学

「障害者の安全で快適な生活支援技術」 山内 繁 (早稲田大学)

### 5. 計測自動制御学会北陸支部会見学会「金沢大学フォーミュラ研究会 見学会」

日 時：平成 18 年 7 月 29 日 (土) 場 所：金沢大学

### 6. 計測自動制御学会北陸支部講演会

日 時：平成 18 年 8 月 21 日 (金) 場 所：金沢工業大学

・外乱推定特性を有する内部モデル制御系の設計と解析 鈴木 亮一 (ロボティクス学科)

・視覚情報を用いたロボット制御 河合 宏之 (ロボティクス学科)

### 7. 第 4 回生体医工学サマースクール (主催：日本生体医工学会)

日 時：平成 18 年 8 月 20-22 日 場 所：立山国際ホテル

・筋の活動からみた筋電図とは 木竜 徹 (新潟大学)

・筋活動を理解する 林 良一 (市立岡谷病院)

・筋活動をはかる 三田 勝己 (川崎医療福祉大学)

・筋活動をつかう 吉田 正樹 (大阪電気通信大学)

・筋活動がなぜ魅力的か (談話)

### 8. 電気関係学会北陸支部連合大会および計測自動制御学会特別講演会

日 時：平成 18 年 9 月 16,17 日 場 所：金沢工業大学

計測自動制御学会特別講演会講演：「高温超伝導電動機の開発と将来」 杉本 英彦 (福井大学)

### 9. 日本機械学会ロボメカ部門講演会「知的画像センシング技術の新展開」

(主催：日本機械学会 ロボティクスメカトロニクス部門)

日 時：平成 18 年 9 月 29 日 (金) 場 所：福井大学

・見る、視る、観る、看る、診る、みる 滝沢 穂高 (筑波大学)

・生活支援ロボットのための画像センシングと環境知能 前 泰志 (福井大学)

・電子回路基盤からのコンデンサ抽出および RF タグと画像処理を利用した食器の認識

青柳 誠司 (関西大学)

見学会：知能システム工学科知能ロボット研究室見学

### 10. 計測自動制御学会 10 周年記念講演会開催

日 時：平成 18 年 12 月 1 日 (金) 場 所：メルパルク金沢

・記念講演会「拓かずんば開かず」 示村 悦二郎 (北陸先端科学技術大学院大学 前学長)

・記念チュートリアル 小野 治 (明治大学)

・北陸 研究室・企業ポスター展示会

### 11. ADVANTY 2006 (主 催：ビークルオートメーション研究会)

- 日 時：平成 18 年 12 月 15, 16 日 場 所：金沢大学  
1 2. 日本生体医工学会北陸支部大会特別講演会 (主 催：日本生体医工学会北陸支部大会)  
日 時：平成 12 月 16 日(土) 場 所：金沢大学  
講演者：麻野井 英次 (射水市民病院 院長)

## (2 2) 関西支部

関西支部における平成 18 年度の事業活動は、講習会、見学会、シンポジウムを開催するとともに、学生連絡研究会、安全・安心の科学研究会を継続した。シンポジウムは、対象を企業の若手研究者にも広げるべく若手研究発表会という形で開催するとともに、引続き安全・安心の科学シンポジウムを開催した。これらの事業を通して、さらなる産学官の連携および事業の拡大を図ることができた。なお、40 周年記念事業としては、支部総会に合わせて記念誌を発行・配布した。

事業内容の詳細は次の通り。

### 1. 特別講演会 1 回

平成 18 年 1 月 25 日(水) 参加者 54 名

「安全・安心のための原子力・放射線医療の大学院教育」

東京大学 上坂 充 氏

「数理科学的アプローチによる安全・安心のためのメンテナンス科学」

神戸大学 小島 史男 氏

### 2. 講習会 1 回

平成 18 年 6 月 14 日(水) 参加者 40 名

千里ライフサイエンスセンターセミナー室 1001

「データを料理する 一膨大な情報を取り扱う技術とその応用一」

(1) 複雑に絡み合った膨大な情報を解きほぐす 一独立成分分析の基礎と応用一

近畿大学 生物理工学部 中迫 昇 氏

(2) 数値線形代数が解決する多変数システムの同定

同志社大学 文化情報学部 片山 徹 氏

(3) 情報爆発するインターネットの検索と可視化

NTT コミュニケーション科学基礎研究所 佐藤 哲司 氏

(4) 『平安京ビュー』による大規模情報可視化

お茶の水女子大学 理学部 伊藤 貴之 氏

(5) 金融業のデータマイニングの歩み

三菱東京 UFJ 銀行 小野 潔 氏

### 3. 見学会 2 回

第 1 回 平成 18 年 7 月 7 日(金) 参加者 35 名

テーマ「ユビキタス時代を予見する～けいはんな学研都市研究所ツアー」

NTT コミュニケーション科学基礎研究所

(株)国際電気通信基礎技術研究所

奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科

第 2 回 平成 18 年 11 月 17 日(金) 参加者 35 名

テーマ「巨大実験装置の計測と制御」

独立行政法人 防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センター

実大 3 次元振動破壊実験設備 (Eーディフェンス)

(財)高輝度光科学研究センター 大型放射光施設 (Spring-8)

### 4. シンポジウム 2 回

若手研究発表会

平成 18 年 3 月 6 日(月) 参加者：学生 39 名，一般 25 名，計 64 名

神戸大学百年記念館 (神大会館)

特別講演： 「ものそれ自体の担う頑健性の形式」

神戸大学 郡司 幸夫 氏

一般発表件数： 学生 33 件，企業 3 件

「安全・安心の科学」シンポジウム

平成 18 年 12 月 6 日(水) 参加者 55 名

中央電気倶楽部

招待講演： 4 件，一般講演 3 件

5. 研究会 2件  
「安全・安心の科学研究会」 代表 京都大学 榎木 哲夫 氏  
「学生連絡研究会」 代表 京都大学 塩瀬 隆之 氏
6. 支部総会 1回 平成18年1月25日(水)
7. 支部幹事会 6回
8. 特別幹事会 1回
9. 協賛事業 27件

(23) 中国支部

1. 行事

(1)特別講演会

日時：平成18年1月20日(金)岡山大学大学院自然科学研究科棟  
演題：「力触覚を用いた人工現実感技術」  
講師：吉川 恒夫 氏 (立命館大学情報理工学部教授)

(2)計測制御シンポジウム2006

テーマ：「大量データからプロセスを見よう。操ろう。」

日時：平成18年8月25日(金) 9:30~17:30

場所：JFE スチール西日本製鉄所倉敷地区・見学センター

参加者数：45名 (一般参加24名, 講演者4名, 役員および運営委員17名)

内容：基調講演1件, 事例報告2件, 総合討論, 工場見学, 懇親会

(3)第15回計測自動制御学会中国支部学術講演会

日時：平成18年11月18日(土) 9:00~19:30(懇親会含む)

場所：岡山理科大学25号館

発表講演件数：135件

参加者：250名

(4)講演会(14回)

月/日	場所	主催学会	題目
1/25	岡山	電子情報通信学会	情報家電組み込みソフトウェアのアーキテクチャ (1)無線シミュレーション最前線 -ネットワークシミュレータ QualNet-
1/25	岡山	電子情報通信学会	(2)新潟大学におけるアドホックネットワーク研究開発への取り組み
2/21	鳥取	電子情報通信学会	(1)「ロバスト音声認識とその実時間処理用LSI設計について」 (2)「携帯機器向け動画像圧縮符号化技術とそのVLSI化設計」
2/27	鳥取	電子情報通信学会	A Study on Bayesian Approach to Optimal Release Policies for Software Systems
3/6	岡山	計測自動制御学会	(1)On Iterative Learning Control (2)On Networked Control Systems
5/22	岡山	計測自動制御学会	(1)「企業での研究・大学での研究-経験から学んだこと-」 (2)Modeling and Control of Large size(PHWR) Nuclear Reactor
7/15,19	岡山	電気学会	中国電力(株)中畝変電所および水島発電所見学
9/15	広島	電子情報通信学会	量子コンピュータと進化的アルゴリズムへの適用
9/26	広島	計測自動制御学会	生活環境中磁界と小児白血病(5/17に予定されていたが講師急病のため延期されていた。回復に伴い再開)
9/29	広島	電子情報通信学会	回り込みキャンセラのための適応アルゴリズム
11/10	岡山	計測自動制御学会	A hybrid intelligent optimal control method for the whole production line and applications
11/17	岡山	情報処理学会	複雑化・高度化する給電運用業務と情報通信システム
11/29	岡山	情報処理学会	ユビキタス情報社会への取り組み ～シームレスな通信と測位環境の実現に向けて～
12/20	広島	電気学会	中国地方における産学連携の取組事例とその成果



(5) 計測自動制御学会中国支部チュートリアル講演会

開催日 : 平成 18 年 12 月 7 日(木) 13:00~17:20

場所 : 岡山大学大学院自然科学研究科大講義室

内容 : 「ロボットの基礎から応用まで」をテーマに、下記の講演を行った。

1)13:05~14:05 「ロボットの力学」 五百井 清 氏 (近畿大学)

2)14:05~15:05 「ロボットの要素」 西本 澄 氏 (広島工業大学)

3)15:20~16:20 「ロボットの制御」 則次 俊郎 氏 (岡山大学)

4)16:20~17:20 「ロボットの応用」 谷口 隆雄 氏 (島根大学)

(6) グループ研究会(13 件)

県名	研究会名称	代表者
鳥取	知能システム研究会	小西 亮介(鳥取大学工学部)
広島	東広島デジタル信号処理研究会	雛元 孝夫(広島大学大学院工学研究科)
岡山	津山地区計測自動制御研究会	井上 浩行(津山工業高等専門学校)
広島	福山地区グループ研究会	清水 光(福山大学工学部)
広島	プロセス制御研究会	山本 透(広島大学大学院教育研究科)
岡山	人間・情報・システム研究会	村田 厚生(岡山大学大学院自然科学研究科)
山口	山口地区グループ研究会	和田 憲造(山口大学工学部)
岡山	岡山地区計測制御研究会	井上 昭(岡山大学大学院自然科学研究科)
島根	松江地区計測自動制御研究会	積際 徹(島根大学総合理工学部)
岡山	インテリジェント制御研究会	兼田 雅弘(岡山県立大学情報工学部)
広島	瀬野川地区グループ研究会	宗像 経博(広島国際学院大学工学部)
山口	医療福祉用計測制御技術研究会	田中 幹也 (山口大学工学部)
広島	AV 環境における計測制御研究会	生田 颯 (県立広島大学)

2. 役員会・総会

○平成 18 年度第 1 回役員会：平成 18 年 1 月 20 日(金) 岡山市

平成 17 年度事業報告及び決算報告

平成 18 年度事業計画及び予算案

平成 18 年度グループ研究会の承認

○平成 18 年度総会：平成 18 年 1 月 20 日(金) 岡山市

平成 17 年度事業報告

平成 17 年度決算報告

平成 18 年度役員改選

平成 18 年度事業計画

平成 18 年度予算案

○平成 18 年度拡大幹事会：平成 18 年 5 月 12 日(金) 岡山市

第 1 回役員会議事録(案)の承認

第 15 回学術講演会について

第 2 回役員会の開催について

その他

○平成 18 年度第 2 回役員会：平成 18 年 9 月 25 日(月) 岡山市

平成 18 年度拡大幹事会議事録(案)の確認

計測制御シンポジウム 2006 について

第 15 回学術講演会について

支部行事中間報告

次期役員候補について

平成 19 年度総会・講演会について

第3回役員会の開催について

その他

- 平成18年度第3回役員会：平成18年11月18日(土)岡山市
- 平成18年度第2回役員会議事録(案)の確認
- 第15回学術講演会について
- 平成19年度役員選出について
- 平成19年度通常総会・第1回役員会開催について
- その他

#### (24) 四国支部

四国支部の学会活動を活発化させるため、若年者また会員勧誘対象者を意識した講演会および見学会を企画・実施した。また、支部内の関連する研究活動を活性化するために、各大学で行われていた研究会との共催事業にも積極的に取り組んだ。また、今年度も若年会員を対象とした四国支部奨励賞の募集を継続した。

以下に今年度の実施事業を報告する。

##### 1. 総会 1回

日時：2006年1月28日(土)11:00～12:00

場所：徳島大学工学部(徳島市)

##### 2. 役員会 2回

日時：2006年1月14日(土)12:30～15:00

場所：香川大学工学部(高松市)

日時：2007年1月13日(土)11:30～13:00

場所：徳島大学工学部(徳島市)

##### 3. 講演会 6回

(1)日時：2006年1月24日(火) 16:00-17:00

場所：香川大学工学部 2208会議室 (高松市林町 2217-20)

演題：Frontier of Medical Engineering and Life Science

講師：Zhuangzhi Yan, Dr.Eng., Professor and Dean,

Institute of Biomedical Engineering, Shanghai University

主催：計測自動制御学会四国支部

連絡先：香川大学工学部知能機械工学科 吳景龍

e-mail: wu@eng.kagawa-u.ac.jp

(2)日時：2006年7月28日(金) 16:30-17:30

場所：香川大学工学部 3101講義室 (高松市林町 2217-20)

演題：緩和法に基づく回路解析法の実装

講師：上智大学理工学部 田中 衛 氏

主催：計測自動制御学会四国支部

連絡先：香川大学工学部信頼性情報システム工学科 丹治裕一

E-mail: tanji@eng.kagawa-u.ac.jp

(3)日時：2006年12月1日(金) 15:00～16:30

場所：徳島大学工学部機械工学科 M207教室

演題：ニューラルネットワークのパターン認識特性

講師：徳島大学医学部保健学科教授 長篠博文氏

主催：計測自動制御学会四国支部

連絡先：徳島大学工学部機械工学科 小西克信

TEL: 088-656-7383

E-mail: konishi@me.tokushima-u.ac.jp

(4)日時：2006年12月7日(木) 12:50～14:20

場所：徳島大学工学部共通講義棟 K206教室

演題：疎テンプレートマッチングに基づく物体の実時間追跡

講師：岡山大学大学院自然科学研究科教授 尺長 健 氏

主催：計測自動制御学会四国支部

連絡先：徳島大学工学部機械工学科 小西克信

TEL: 088-656-7383

E-mail: konishi@me.tokushima-u.ac.jp

(5)日時：2006年12月11日(月)14:40～16:10

場所：愛媛大学農学部会議室(2F)

演題：「近赤外分光法による植物生体情報のモニタリング」

講師：高知大学農学部 教授 松岡 孝尚 氏

主催：計測自動制御学会四国支部

連絡先：愛媛大学農学部 施設生産システム学専門教育コース

羽藤 堅治

〒790-8566 松山市樽味 3-5-7

Phone: 089-946-9892

Email: hatou@agr.ehime-u.ac.jp

(6)日時：2006年12月12日(火)14:30～16:00

場所：徳島大学工学部機械工学科 M311 教室(3F) (徳島市南常三島町 2-1)

演題：圧電ダンピングによる機械構造物の振動制御

—スマート構造によるアプローチ—

講師：神戸大学工学部 助教授 安達 和彦 氏

主催：計測自動制御学会四国支部

連絡先：徳島大学工学部機械工学科 日野順市

TEL: 088-656-7384 Fax: 088-656-9082

E-mail: hino@me.tokushima-u.ac.jp

#### 4. 研究会 1 件

##### (1) 画像認識研究会

###### 1 回目

日時：2006年11月6日(月)17:30～19:00

場所：徳島大学工学部機械工学科 4 階 M413 教室

内容：画像計測の基礎

「2眼ステレオ法とフォトメトリックステレオ法を組み合わせた形状計測」

###### 2 回目

日時：2006年12月4日(月) 17:30～19:00

場所：徳島大学工学部機械工学科 4 階 M413 教室

内容：ノイズ除去・表面推定

「ネジ頭部の外観検査」

###### 3 回目

日時：2006年12月18日(月)17:30～19:00

場所：徳島大学工学部機械工学科 4 階 M413 教室

内容：領域分割, 物体検出

「アクティブ探索法を用いた移動物体の検出」

#### 5. 共催事業 8 件

##### (1) 2006 年度電気関係学会四国支部連合大会

日時：2006年9月26日(火)

会場：愛媛大学 城北キャンパス (松山市文京町 3 番)

ホームページ <http://sjciee.ymw.ne.jp/>

##### (2) 講演会

日時：2006年1月18日(水)13:00～14:30

場所：〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1

徳島大学工学部共通講義棟 K502 教室

演題：「インテリジェント・メカトロニクス」

講師：東京電機大学 学長 原島文雄 氏

主催：電気学会四国支部

共催：電子情報通信学会四国支部

計測自動制御学会四国支部

連絡先：徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 大西 徳生

Phone: 088-656-7456 Fax: 088-656-7456

Email: ohnishi@ee.tokushima-u.ac.jp

(3)講演会

日時：2006年7月14日(金) 16:20～17:50

場所：〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1

徳島大学工学部共通講義棟 K407 講義室

演題：「小形モータの技術動向と省エネルギー

—自動車用モータ他—

講師：慶応義塾大学工学部教授 澤 孝一郎 氏

主催：電気学会四国支部

共催：電子情報通信学会四国支部

計測自動制御学会四国支部

連絡先：徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 森田郁朗

Email: morita@ee.tokushima-u.ac.jp

(4)講演会

日時：2006年12月1日(金) 14:35～16:05

場所：徳島大学工学部共通講義棟 K502 講義室 (徳島市南常三島町 2-1)

演題：「モータードライブの技術動向について」

講師：鹿児島大学工学部 教授 篠原 勝次 氏

主催：電気学会四国支部

共催：電子情報通信学会四国支部

計測自動制御学会四国支部

連絡先：徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 大西 徳生

Phone: 088-656-7456 Fax: 088-656-7456

Email: ohnishi@ee.tokushima-u.ac.jp

(5) 香川大学非線形システム研究会

2006年9月7日(木), 9月26日(火)

香川大学工学部

(6) 文理システム制御情報研究会

2006年12月21日 14:00～16:00

徳島文理大学 香川キャンパス 10号館 8Fゼミ室

(7) 愛媛地区システム・ロボット・農学研究会

2006年11月22日(水) 17:30-19:00

愛媛大学工学部機械工学科 S401教室

(8) Motion Control and Mechatronics 研究会

2006年11月8日(水) 18:00-20:00

2006年12月8日(金) 18:00-20:00

高知工科大学知能機械システム工学科

6. 見学会

日時：2006年12月8日(金) 9:00～17:00

場所：株式会社 タダノ 志度工場 (さぬき市志度)

株式会社 四国総合研究所 (高松市屋島西町)

7. その他

四国支部奨励賞：本年度は該当者なし

(25) 九州支部

平成18年九州支部事業の概要

九州・沖縄地区の SICE 会員および計測と制御に関わる研究者、技術者、学生を主な対象として、地域の会員等にとって魅力ある活動を目指し、以下の事業を展開した。

1. 研究活動の場と情報の提供

特別講演会、研究会、SICE九州フォーラム、講義会、学術講演会、講演会(地区主催)、見学会などを実施もしくは実施予定。また、総会やWebを通して支部における活動の情報提供を行った。

2. 会員増加への取り組み

学術講演会と同時に学生発表交流会を企画した。発表を通して学生間および一般・会員との交流を深めることを目的とし、学生に気楽に参加してもらうことで、SICEの魅力を学生に伝える場を

提供している。

3. 支部運営および事業企画・検討

総会、評議員会、役員会、委員会を開催し、支部の諸活動の立案・実施にあたり、これまでの活動内容の検討などを行った。

平成18年九州支部事業リスト

1) 実施済行事

<支部主催>

総会	1回
役員会	3回
評議員会	1回
事業委員会	2回
SICE九州フォーラム	1回
講義会	1回
学術講演会	1回
学生発表交流会	1回
特別講演会	1回

<研究会主催>

研究会	4回
-----	----

<地区委員会主催>

研究会	0回
-----	----

<支部共催>

講習会	1回
講演会	2回

<支部協賛>

講演会	1回
見学会（計装研究会主催）	1回
研究会	1回
談話サロン	1回
支部奨励賞表彰	1回

計測自動制御学会九州支部第36期（平成18年度）事業報告詳細

開催日	項目	内容	主催・共催	会場、人数
1月6日	役員会	1.年間事業報告 2.決算報告 3.次期役員・評議員候補者の承認 事業委員の承認 4.研究委員会継続の承認 5.新年度事業計画案の検討・承認 6.予算案承認 7.支部奨励賞・本部奨励賞推薦の決定 8.その他		九州大学 (福岡市) 7名
1月13日	新旧合同 役員会 評議員会	1.年間事業報告 2.決算報告 3.次期役員・評議員候補者の承認 次期事業委員の承認 4.研究委員会継続の承認 5.新年度事業計画案の検討・承認 6.予算案承認 7.支部奨励賞の報告 8.その他		九州大学 (福岡市) 1 7名

1月13日	総会	1.第35期事業報告 2.第35期決算報告 3.第35期会計監査報告 4.支部奨励賞の贈呈 5.第36期支部役員・評議員紹介 6.第36期事業計画案 7.第36期地区委員会・研究委員会 8.第36期収支予算案 9.旧新支部長挨拶		九州大学 (福岡市) 19名
3月5日	公開型研究発表会	「第2回人工頭脳工学シンポジウム」	(主)佐賀大学学長経費研究グループ(佐大Brain2005プロジェクト) (共)本支部	佐賀大学理工学部(佐賀市) 約100名
3月14日	研究会	「国際規格 IEC 61508… 制御+安全性⇒制御則の確率的安全性評価・管理 …」 講師 陶山 貢市 教授(東京海洋大学) 「精度保証付き計算を用いた制御系解析・設計」 講師 管野 政明 氏(東京大学)	(主)制御理論とその応用に関する研究委員会(RACOT)	九州工業大学天神サテライトキャンパス (福岡市) 12名
3月31日	役員会	1.事業報告 2.会計報告 3.平成18年度事業計画 4.九州支部奨励賞について 5.九大事務局の運営方針について 6.その他		九州大学 (福岡市) 9名
4月15日	談話サロン	「ものづくりと工学教育」第2回談話サロン 「脳波によるコンパクト型意思伝達システムの開発」 講演者:村山 伸樹(熊本大学・大学院自然科学研究科・教授) 「動物細胞の三次元培養とその応用—基礎研究から人工臓器まで—」 講演者:松下 琢(崇城大学・生物生命学部・教授) 「自動車産業技術と工学教育」 講演者:坂井 滋(日産自動車株式会社・リソースマネジメント部)	(主)日本工学アカデミー (共)熊本大学 (協賛)本支部	熊本大学・工学部100周年記念館 (熊本市) 80名
6月23日	SICE九州フォーラム2006	「RTミドルウェアの動向」 講師 水川 真(芝浦工大教授, ORiN協議会委員長) 神徳 徹雄(産業技術総合研究所知能システム部門主任研究員) 「RTM-aistの紹介」 講師 安藤 慶昭(産業技術総合研究所知能システム部門研究員) 「組込みシステムへのRTミドルウェアの適用(RTC-CAN)」 講師 池添 明宏(株式会社セック 開発本部 第四開発部)	(主)本支部 (共)計装研究会, SICE SI部門RT部会, ORiN協議会, 熊本知能システム技術研究会, NPO熊本県次世代情報通信推進機構, 熊本県工業連合会, (財)熊本テクノ産業財団, SICE九州支部熊本地区委員会	熊本大学 (熊本市) 29名
6月23日	講演会	「超速ハイパーヒューマン技術が開く新世界」 講師 金子真(広島大学 工学研究科複雑システム工学専攻教授)	(主)日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門 (協賛)本支部	ロボスクエア(福岡市) 49名

7月6日	講習会	「ブレイクスルーを生み出す次世代アクチュエータ」 講師 樋口俊郎（東京大学教授） 前野隆司（慶應義塾大学教授） 黒澤 実（東京工業大学助教授） 服部 正（兵庫県立大学教授） 吉田和弘（東京工業大学助教授） 大岡昌博（名古屋大学助教授） 矢野智昭（産業技術総合研究所主任研究員） 則次俊郎（岡山大学教授） 田所 諭（東北大学教授） 白石昌武（茨城大学教授） 鈴木康一（岡山大学教授）	(主) 日本機械学会 (共)本支部	北九州国際 会議場 2 1 会議室（北 九州市） 35名
8月24日	見学会	安川電機ロボット工場見学 「次世代ロボットへの取り組み」 横山 和彦（安川電機 技術開発本部 開発研 究所ロボティクス要素技術開発グループ）	(主) 計装研究会 (協賛)本支部	安川電機 （北九州市） 43名
9月8日	事業委員 会	学術講演会のプログラム作成	(主) 本支部事業委員 会	九州大学 （福岡市） 11名
9月25日	研究会	「A Bridge between Robustness and Simplicity: Robust Control Applications in Power Systems」 講師 Hassan Bevrani 氏（熊本大学工学部電 気システム工学科 客員研究員）	(主)制御理論とその応 用に関する研究委員 会（RACOT）	熊本大学 （福岡市） 10名
10月19日	講演会	「東北大学における宇宙ロボット研究」 吉田和哉（東北大学教授）	(主) 九州大学 ロボ ティクス・リサーチコ ア (共)本支部	九州大学 （福岡市） 23名
10月20日	研究会	平成18年度信頼性研究会 テーマ「信頼性一般」 講演件数 4	(主) 電子情報通信学 会信頼性研究会 (共) IEEE Reliability Society Japan Chapter (共)本支部	九州大学 （福岡市） 10名
11月10日	研究会	「一組の実験データを直接用いた制御器パラメ ータチューニング」 講師 金子 修 氏（大阪大学） 「A Novel Robust Nonlinear Motion Controller with Disturbance Observer」 講師 楊 子江 氏（九州大学）	(主)制御理論とその応 用に関する研究委員 会（RACOT）	九州工業大 学天神サテ ライトキャン パス （福岡市） 11名
11月16日 - 17(金)	研究会	電気学会 計測研究会 テーマ「計測一般」 発表件数 16件	(主)電気学会 (共)本支部	佐賀大学 （佐賀市） 48名
12月2日	講義会	テーマ「安全・安心のための先端センシング技術」 講師 田中 正吾 教授（山口大学）	(主)本支部	佐賀大学 （佐賀 市） 93名
12月2日 ～3日	学術講演 会	第25回計測自動制御学会九州支部学術講演会 1. 講演件数 107件 (1)制御理論 8件 (10)診断技術	(主)本支部	佐賀大学 （佐賀 市） 208名

		<p>4件 (2)制御応用 12件 (11)システム応用 10件 (3)マトロ系の制御 6件 (12)生体情報 9件 (4)ロボットマニピュレーター 5件 (13)画像処理 6件 (5)プロセス制御 7件 (14)ソフトコンピューティング 1件 (6)自動化 0件 (15)ヒューマンインターフェース 2件 (7)推定・同定 8件 (16)ロボットビジョン 3件 (8)計測・センサ 13件 (17)産学共同研究 0件 (9)信号処理 7件 (18)その他 5件</p> <p>2. 特別講演 テーマ「風力発電の現状と課題」 講師 箕崎 裕章 氏 (九州電力株式会社顧問)</p>		
12月2日 ～3日	学生発表 交流会	発表件数 5件	(主)本支部	佐賀大学 (佐賀市) 207名
12月3日	事業委員会	第37期事業計画等について		佐賀大学 (佐賀市) 21名
12月22日	研究会	<p>「伝達情報の変換によるネットワーク型拘束システムの制御法」 講師 小木曾 公尚 氏 (奈良先端科学技術大学院大学) 「入力部に非線形特性を有する位置決め装置に対するロバスト適応制御」 講師 佐藤 和也 氏 (佐賀大学)</p>	(主)制御理論とその応用に関する研究委員会 (RACOT)	九州工業大学天神サテライトキャンパス (福岡市) 8名

## II 事業

### (1) 会誌「計測と制御」(Vol.45, No.1～No.12)を毎月発行

- 1月号 特集・大規模シミュレーションの産業応用
- 2月号 特集・ナノテクノロジーのための計測技術
- 3月号 特集・自動車制御の昨日, 今日, 明日
- 4月号 特集・フレッシュマンのための計測講座
- 5月号 特集・人間支援機器における計測制御技術
- 6月号 特集・人道的観点からの対人地雷の探知システム
- 7月号 特集・非ホロノミックメカニズム入門
- 8月号 特集・予防安全のためのヒューマンファクタ解析
- 9月号 特集・安全性・快適性を旨とした鉄道システムのインテグレーション
- 10月号 特集・環境問題における計測・制御・モデリング
- 11月号 特集・医療・バイオ関連の計測制御技術
- 12月号 特集・デジタルヒューマン技術—人間をシステムとして捉える

総頁数 1,084 頁



(2) 論文集「計測自動制御学会論文集」(Vol.42, No.1~12)を毎月発行

総頁数 1370 頁

掲載論文 163 件, ショート・ペーパー10 件, 開発・技術ノート 0 件,

投稿論文数 217 件, ショート・ペーパー18 件, 開発・技術ノート 0 件, 討論 0 件

購読数 1942 部

(3) 産業論文

産業論文累計 47 編, ショート・ペーパー累計 1 件, 開発・技ノート累計 5 件 を Web 上で公開

(4) 英語論文

2007 年度の新しい英語論文集との関連を検討した。

(5) 講演会

1. 主催

- (ア) SICE- ICCAS2006(ICASE との Joint Conference) (06.10.18-21・釜山市・大韓民国)  
(採択論文数 1,228 件(31 の国と地域から. うち日本からは 652 件), 一般セッション  
190 セッション 740 件, オーガナイズドセッション 95 セッション 488 件, 参加者 一  
般 775 名, 学生 658 名. うち日本からは一般 504 名, 学生 334 名)
- (イ) SICE Week 「Korean Science Academy(韓国科学英才高校)」 (06.10.18・130 名)
- (ロ) SICE Week 「海雲臺(へウンデ)高校」 (06.10.18・310 名)
- (エ) 第 5 回チュートリアル講演会 (06.12.4・東京・55 名)

2. 共催

- (ア) 第 9 回生産学術連合会議講演会 (2006.1.13・東京)
- (イ) 2006 年春季第 53 回応用物理学関係連合講演会 (2006.3.22-26・東京)
- (ロ) 第 1 回複合医工学シンポジウム (2006.5.19-20・京都)
- (エ) 原子力総合シンポジウム 2006 (2006.5.29-30・東京)
- (オ) 第 43 回アイソトープ・放射線研究発表会 (2006.7.5-7・東京)
- (カ) 第 36 回安全工学シンポジウム (2006.7.6-7・東京)
- (キ) 平成 18 年度工学教育連合講演会 (2006.9.9・東京)
- (ク) 第 50 回宇宙科学技術連合講演会 (2006.11.8-10・北九州)
- (ケ) 第 49 回自動制御連合講演会 (06.11.25-26・神戸)

(6) 部門大会/部門学術講演会

- (1) 第 6 回制御部門大会 (06.5.31-6.2・愛知・354 名)
- (2) 第 23 回センシングフォーラム (06.10.2-3・茨城・148 名)
- (3) 産業応用部門 2006 年度大会 (06.11.6-7・東京・81 名)
- (4) システム・情報部門学術講演会(SSI2006) (06.11.28-30・茨城・104 名)
- (5) 第 7 回システムインテグレーション部門講演会(SI2006) (06.12.14-17・北海道・907 名)
- (6) SI フォーラム 2006 (06.12.14-17・北海道・600 名)

(7) 支部関係/支部学術講演会

- (1) 北海道支部  
学術講演会 1 回, 特別講演会 1 回, 講演会 1 回, 共催・協賛行事 3 回
- (2) 東北支部  
研究集会 7 回, 共催・協賛行事 5 回, 見学会 1 回
- (3) 中部支部  
学術講演会 4 回, 特別講演会 1 回, 講演会 2 回, チュートリアル講演会 1 回, 講習会 1 回  
研究会 23 回, 見学会 2 回, シンポジウム 1 回, 共催・協賛行事 8 回
- (4) 北陸支部  
特別講演会 1 回, 講演会 4 回, 見学会 1 回, 共催行事 7 回,
- (5) 関西支部  
特別講演会 1 回, 見学会 2 回, 研究会 2 回, 講習会 1 回, シンポジウム 2 回

協賛行事 27回

- (6) 中国支部  
学術講演会 1回, 特別講演会 1回, シンポジウム 1回, チュートリアル講演会 1回, 講演会 14回, グループ研究会 13回
- (7) 四国支部  
講演会 6回, 見学会 1回, 研究会 1回, 共催行事 8回
- (8) 九州支部  
フォーラム 1回, 学術講演会 1回, 特別講演会 1回, 研究会 4回, 共催・協賛行事 7回, 講義会 1回, 学生発表交流会 1回

(8) 講習会

- (1) SICE セミナー「実践的な制御理論」 (06.1.24-25・東京・22名)
- (2) SICE セミナー「制御のためのシステム同定」 (06.3.6-7・大阪・39名)
- (3) センサエキスポジャパン SICE 計測部門セミナー「ネットワークセンシングシステム」 (06.4.6・東京・28名)
- (4) 第6回制御部門ワークショップ (06.5.30・愛知・54名)
- (5) SICE セミナーシリーズ「ロボティクス—ロボット制御の理論と実際—」 (06.8.8・東京・24名)
- (6) SICE セミナー「現代制御理論入門」 (06.9.4-5・東京・34名)
- (7) SICE セミナー「実践的制御系設計の最前線」 (06.10.27・東京・24名)
- (8) SICE セミナー「実践的な制御理論」 (06.12.6-7・東京・37名)

(9) シンポジウム

- (1) 第18回自律分散システム・シンポジウム (06.1.26-27・福井・117名)
- (2) 第6回適応学習制御シンポジウム (06.3.7-8・東京・54名)
- (3) 第33回知能システムシンポジウム (06.3.16-17・筑波・90名)
- (4) 第12回創発システムシンポジウム (06.8.18-20・富山・94名)
- (5) 共創と複雑系シンポジウム (06.9.22-23・東京・31名)
- (6) 第35回制御理論シンポジウム (06.9.19-20・大阪・150名)
- (7) 第23回誘導制御シンポジウム (06.11.1-2・東京・41名)
- (8) 計装技術交流部会・産業システム部会合同シンポジウム(産業応用部門大会と併設)
- (9) 第7回流体計測制御シンポジウム(産業応用部門大会と併設)
- (10) 計測・制御ネットワーク部会シンポジウム(産業応用部門大会と併設)
- (11) 第32回リモートセンシングシンポジウム (06.11.9-10・東京・49名)
- (12) 第21回生体・生理工学シンポジウム (06.11.17-19・鹿児島・295名)
- (13) 第11回パターン計測シンポジウム (06.11.24-25・徳島・19名)

(10) 部門活動

- 1. 計測部門 委3回 部門大会1回
  - (1) センシングフォーラム委員会 委3回
  - (2) 温度計測部会 委3回, 部会企画行事5回
  - (3) 力学量計測部会 委2回, 部会企画行事1回, 共催行事2回
  - (4) リモートセンシング部会 委2回, 部会企画行事4回
  - (5) パターン計測部会 委3回, 部会企画行事3回, 共催行事2回, 協賛行事1回
  - (6) センシングフォトンクス部会 委1回, 共催行事1回, 協賛行事1回
  - (7) 先端電子計測部会 委2回, 部会企画行事1回
  - (8) ネットワークセンシングシステム部会 委1回, 部会企画行事4回
- 2. 制御部門 委2回 部門大会1回 セミナー6回
  - (9) 制御技術部会 委3回, 部会企画行事3回
  - (10) 制御理論部会 委2回, 部会企画行事7回
  - (11) マルチレゾルブドシステム調査研究会 委1回, 研究会企画行事2回
  - (12) 知的システム構築のための適応学習制御調査研究会 委1回, 研究会企画行事4回, 協賛行事1回
  - (13) 先端制御技術のビーグル応用調査研究会 委1回, 研究会企画行事6回
  - (14) 非線形ダイナミクスの特異構造から調査を考える調査研究会 委2回, 研究会企画行事4回,

- 協賛行事 1 回
- (15)生物制御調査研究会 研究会企画行事 4 回
- (16)エンジン・パワートレイン先端制御理論調査研究会 委 3 回, 研究会企画行事 1 回
3. システム・情報部門 委 3 回 部門大会 1 回
- (17)システム工学部会 委 4 回, 部会企画行事 7 回
- (18)マンマシンシステム部会 委 1 回, 部会企画行事 1 回
- (19)知能工学部会 委 1 回, 部会企画行事 1 回
- (20)生体・生理工学部会 委 2 回, 部会企画行事 3 回, 共催行事 1 回, 協賛行事 1 回
- (21)自律分散システム部会 委 5 回, 部会企画行事 6 回
- (22)ニューラルネットワーク部会 委 1 回, 部会企画行事 3 回, 共催行事 1 回
- (23)離散事象システム部会 委 1 回, 部会企画行事 6 回
- (24)SMC 国内委員会 委 2 回, 部会企画行事 2 回
- (25)身体・脳・環境の相互作用による適応的運動機能の発現に関する調査研究会 委 2 回,  
研究会企画行事 5 回, 協賛行事 3 回
- システムインテグレーション部門 委 6 回, 部門大会 1 回
- (26)メカトロニクスシステム部会 委 4 回, 部門企画行事 2 回
- (27)自動化システム部会 委 3 回, 部会企画行事 8 回, 共催行事 1 回
- (28)ロボティクス部会 委 1 回, 部会企画行事 4 回
- (29)福祉工学部会 委 6 回, 部会企画行事 8 回
- (30)VR 工学部会 委 2 回, 部会企画行事 8 回
- (31)レスキュー工学部会 委 2 回, 部会企画行事 7 回, 共催行事 4 回
- (32)ユニバーサルデザイン部会 委 1 回, 部会企画行事 2 回, 協賛行事 1 回
- (33)相互作用と賢さ部会 委 4 回, 部会企画行事 8 回, 共催行事 1 回
- (34)共創システム部会 委 4 回, 部会企画行事 5 回, 共催行事 2 回
- (35)ロボット・セラピー部会 委 5 回, 部会企画行事 18 回, 共催行事 1 回
- (36)安全回復システム部会 委 6 回, 部会企画行事 1 回
- (37)バイオシステム部会
- (38)RT システムインテグレーション部会 委 6 回, 部会企画行事 4 回
- (39)ソフトマテリアル応用部会 委 1 回, 部会企画行事 3 回
- (40)医工融合システム部会
- (41)人工生命体システム部会
- (42)触覚部会 委 1 回, 部会企画行事 1 回
- (43)モーションメディア調査研究会 委 3 回, 部会企画行事 4 回
- (44)分散知識・行動知能調査研究会 委 6 回
- (45)社会における RT ロールモデル調査研究会
4. 産業応用部門 委 4 回, 部門大会 1 回
- (46)産業システム部会 委 4 回, 部会企画行事 1 回
- (47)計装技術交流部会 委 10 回, 部会企画行事 5 回
- (48)流体計測制御部会 委 1 回, 部会企画行事 2 回
- (49)計測・制御ネットワーク部会 委 3 回, 部会企画行事 2 回, 協賛行事 2 回, 共催行事 1 回
- (50)計測制御エンジニア会 委 3 回, 会企画行事 1 回
5. 先端融合部門 委 2 回, 共催行事 1 回
- (51)バイオメテックマシン部会 委 1 回, 研究会企画行事 1 回, 協賛行事 3 回
- (52)次世代医療福祉システム調査研究会 研究会企画行事 1 回
- (53)スマートビークルシステム調査研究会 委 1 回, 研究会企画行事 3 回
- (54)大規模システム安全保全・安全環境構築調査研究会 委 2 回
- (55)バイオインフォメーションエクステンジ(BIX)調査研究会 委 2 回, 研究会企画行事 1 回,  
協賛行事 2 回
- (11) 国際会議 (共催)
- (1) 第 11 回人工生命とロボットに関する国際シンポジウム (AROB) (06.1.23-25・別府)
- (2) Tweleth International Conference on Composites/Nano Engineering (ICCE-14)  
(06.7.2-8・Boulder, Colorado)
- (3) 2006 IEEE International Symposium on Industrial Electronics (ISIE2006)

(06.7.9-13・Québec, Canada)

- (4) 2006 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robotics and Systems (IROS2006) (06.10.9-15・Beijing, China)
- (5) 2006 IEEE Conference on Control Applications (CCA), Symposium on Computer-Aided Control Systems Design (CACSD) and International Symposium on Intelligent Control (ISIC) (06.10.4-6・Munich, Germany)
- (6) The 32nd Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society (IECON'06) (06.11.7-10・Paris, France)
- (7) 2006 国際シンポジウム「マイクロメカトロニクスとヒューマンサイエンス」(MHS2006) (06.11.6-8・名古屋)
- (8) 2006 45th IEEE Conference on Decision and Control (CDC) (06.12.13-15・San Diego, U.S.A.)
- (9) International Conference on Industrial Technology (ICIT2006) (06.12.15-17・Mumbai, India)

## (12) 出版

計測・制御テクノロジーシリーズを刊行中

## (13) ハンドブック等(会員頒布)

頒布状況

- |                                  |            |
|----------------------------------|------------|
| (1) 自動制御ハンドブック(基礎編)(オーム社より販売)    | 累計 4,125 部 |
| (2) " (機器・応用編)(オーム社より販売)         | 累計 4,060 部 |
| (3) 教育用ビデオ教材「初心者のための現代制御理論ビデオ講座」 | 累計 665 セット |
| (4) SICE-BASE 30                 | 累計 164 本   |
| (5) 学術用語集「計測工学編」(コロナ社より販売)       | 累計 370 部   |

## III 学会賞 平成 18 年度計測自動制御学会賞(敬称略)

### (1) 功績賞

(該当なし)

### (2) 論文賞 10 編 32 名

- 論文賞・蓮沼賞 : 川嶋健嗣, 五十嵐康一, 小玉亮太, 加藤友規, 香川利春  
論文賞・武田賞 : 浅井 徹  
論文賞・友田賞 : 目黒淳一, 石川貴一朗, 畑山満則, 瀧口純一, 天野嘉春, 橋詰 匠  
論文賞 : Takeshi MIZUNO, Minoru TAKEUCHI, Masaya TAKASAKI, Yuji ISHINO  
: 北村 直, 藤崎泰正  
: 鈴木秀俊, 坂本 登  
: 西口憲一  
: 城間直司, 長井宏和, 加護谷讓二, 杉本麻樹, 稲見昌彦, 松野文俊  
: 野間 彰, 原田朋弘, 山下一郎  
: 服部義和, 鯉渕 健

### (3) 技術賞 5 編 24 名

- 技術賞 : 佐野恵美子, 前田卓志, 中村高宏, 阪田恒次, 鹿井正博, 白附晶英, 石田晃三, 藤原秀人, 大江敏男, 大橋岳洋  
: 山中 理, 小原卓巳  
: 鮫嶋茂稔, 河野克己, 足達芳昭, 松野 強, 新 誠一  
: 松岡 眞, 北島功朗, 村松 崇  
: 出町公二, 塩原康壽, 高柳洋一, 赤羽国治

### (4) 著述賞

(該当なし)

### (5) 新製品開発賞 1 件

: 横河電機(株)

### (6) 教育貢献賞 1 件

- ：田中正吾
- (7) 学術奨励賞
- 研究奨励賞 10名  
：金涌佳雅, 小林孝一, 南 裕樹, 吉田 匠, 中村文一, 諸岡伸幸,  
清水正宏, Takashi Okamoto, 鈴木健太, 瀬戸文美
- 技術奨励賞 3名  
：蔦田広幸, Kwak, Ki-Seok, 野田善之
- (8) SICE Annual Conference Award
- International Award なし  
Young Author's Award なし
- IV 名誉会員 平成18年度名誉会員証贈呈 3名(敬称略)  
：江木紀彦, 古田勝久, 高 明三
- V フェロー 平成18年度フェロー称号贈呈 8名(敬称略)  
：杉坂政典, 有本 卓, 熊丸耕介, 川路茂保, 内山 勝, 水川 真  
杉江俊治, 小菅一弘
- VI SICE 認定計測制御エンジニア認定試験合格者
- 計測制御エンジニア補 2名  
：村松 崇, 結城大輔
- 計測制御エンジニア 3名  
：若杉宏之, 工藤重樹, 岡本 茂
- 計測制御エンジニア(推薦認定) 26名  
：荒川正裕, 中村賢二, 金子耕三, 北川克一, 新 誠一, 青島伸治,  
末続 靖, 末吉一雄, 小林靖典, 森 芳立, 岩村忠昭, 山下和行,  
大前 力, 香川利春, 小河守正, 田中信貴, 竹中雅史, 小池建郎,  
沖本正則, 石川良雄, 吉岡秀樹, 温井一光, 石川 勤, 坂井 幹,  
若杉繁実, 杉山 保
- VII 部門賞・支部賞
1. 計測部門  
研究・技術奨励賞 : 瀬古保次, 神山和人, 星 貴之, 林 哲也, 高柳庸一郎
2. 制御部門  
パイオニア賞 : 大塚敏之  
部門大会賞 : 甲斐健也
3. システム・情報部門  
優秀賞 : 池田 心, 他  
奨励賞 : 岡本 卓, 染谷博司, 森 勝広
4. システムインテグレーション部門  
技術業績賞 : 山海嘉之  
学術業績賞 : 該当なし  
奨励賞 : 前野隆司  
若手奨励賞 : 西田周平, 尹 祐根, 小澤隆太, 大西正輝, 小林裕之, 関本昌紘,  
齊藤佳奈子  
功績賞 : 谷江和雄, 川路茂保  
貢献賞 : 稲垣克彦  
ロボカップレスキューロボットリーグ計測自動制御学会賞  
：NIITBLUE 新潟工科大学  
(大金一二, 佐藤 仁, 塩入知也, 小林隆浩, 藤田陽介)  
ロボカップレスキューロボットリーグ計測自動制御学会国際賞  
：該当なし  
レスキューロボットコンテスト計測自動制御学会賞(レスキュー工学大賞)  
：都工機械電気チーム(大阪市立都島工業高校 機械電気科)  
ロボカップレスキューシミュレーションリーグ計測自動制御学会賞  
：該当なし  
ロボカップレスキューシミュレーションリーグ計測自動制御学会国際賞

- : 該当なし
5. 産業応用部門  
 技術賞 : 該当なし  
 功績賞 : 田中正吾  
 奨励賞 : Emiko Sano, 井上慎太郎
6. 北海道支部  
 (なし)
7. 東北支部  
 奨励賞 : 船本健一 (東北大学), 越田俊介 (東北大学), 福田 誠 (秋田大学)  
 福田憲一郎 (東北大学), 名久井里美 (山形大学), 金涌佳雅 (東北大学)  
 山縣貴幸 (東北大学), 山本義春 (弘前大学)
8. 中部支部  
 研究賞 : 章 忠 (豊橋技術科学大学), 川福基裕 (名古屋工業大学)  
 技術賞 : 大東昭弘 (㈱デンソー)  
 奨励賞 : 高柳仁史 (住友軽金属工業㈱), 遠藤孝浩 (岐阜大学)  
 伊藤和晃 (豊田工業高等専門学校)
9. 北陸支部  
 優秀論文発表賞 : 松田憲彦 (福井大学)
10. 関西支部  
 (なし)
11. 中国支部 (第15回計測自動制御学会中国支部学術講演会で発表)  
 技術賞 : 越智清史 (日本製鋼所)  
 奨励賞 : 濱元 育 (岡山理科大学), 柴山恵司 (岡山理科大学), 田中 豪 (山口大学)  
 吉田 悠 (島根大学), 高田大輔 (広島大学), 橋本 望 (大阪大学)
12. 四国支部  
 (なし)
13. 九州支部  
 奨励賞 : 河野憲亮(九州工業大学), 東條威士 (九州工業大学)  
 岩村誠人(福岡大学), 深川正太郎(九州工業大学)

## VII 会 議

1. 総 会 第45回定時総会 (06.2.22・東京大学山上会館)
2. 理事会 6回, 拡大1回, 常務理事会 2回
3. 役員・評議員懇談会 1回
4. 支部協議会 3回
5. 賛助会員懇談会 1回
6. 関連団体懇談会 1回
7. 各種委員会
- 企画委員会 (委員会 2回)  
(英文論文誌/倫理綱領/著作物リスク管理など検討会 5回)
  - 会員・広報委員会 (打合せ 5回)
  - 学会賞委員会 (4回)
  - フェロー選考委員会 (1回)
  - 部門協議会 (7回)
  - 国際委員会 (6回)
- SICE-ICASE Jioint International Joint Conference 2006 in Busan (実行委 2回)
- SICE Annual Conference 2007 in Takamatsu (実行委員会 2回, WG5回)
- IMEKO 委員会 (1回)
  - 事業委員会 (6回)
  - 教育・認定委員会 (6回, WG7回)
  - 会誌編集委員会 (6回, WG4回, 特別1回)
  - 論文集委員会 (8回)
  - 産業論文委員会 (3回, 打合せ 3回)

総務委員会 (8回)  
IT委員会 (2回)  
学会モデル委員会 (会誌編集委員会, 論文集委員会のそれぞれの IT WG に協力)  
組込み・ハイブリッドシステム(EHS)調査研究会 (研究会 4回, フォーラム 2回)  
SICE City 構築実行委員会 (1回, 準備委・2回, 全体運営委・1回, 研究会 3回)  
役員候補者推薦委員会 (2回)

#### 8. 支部関係

- (1) 北海道支部 総会 1回, 幹事会 2回, 評議員会 2回
- (2) 東北支部 総会 1回, 運営専門委員会 6回, 役員・評議員・運営専門委員合同委員会 1回
- (3) 中部支部 総会 1回, 役員会 4回, 評議員会 1回, 事業委員会 5回
- (4) 北陸支部 総会 1回, 幹事会 5回, 幹事・評議員合同会議 1回
- (5) 関西支部 総会 1回, 幹事会 6回, 特別幹事会 1回
- (6) 中国支部 総会 1回, 役員会 3回, 拡大幹事会 1回
- (7) 四国支部 総会 1回, 役員会 2回
- (8) 九州支部 総会 1回, 役員会 3回, 評議員会 1回, 事業委員会 2回

#### IX その他

##### 1. 国際関係

- (1) 国際計測連合(IMEKO)への協力
- (2) 国際自動制御連盟(IFAC)への協力
- (3) APFICS への協力
- (4) ISA, CIS, IEEE, ICASE, CAA, CACS との交流
- (5) 来日外国学識者との交流

##### 2. 国内関係

- (1) 日本工学会など関連学協会への協力(事業協賛, 後援などを含む)
- (2) システム制御情報学会との事業協力
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合への協力
- (4) JABEE への協力
- (5) 日本工学会技術者能力開発(PDE)協議会委員会への協力
- (6) 横幹連合への協力

## 収 支 計 算 書 総 括 表

平成 18 年 1 月 1 日 から  
平成 18 年 12 月 31 日 まで

(単位：円)

科目	部門	計測自動制御学会会計	本部	会	計部	門	合	計支	部	合	計	内部取引消去
I 収入の部												
1. 基本財産運用収入		16,114		16,114				0				0
2. 会費収入		96,156,800		96,156,800				0				0
3. 事業収入		95,172,096		55,268,521		35,388,945		4,514,630				0
4. 寄付金収入		0		0				0				0
5. 雑収入		16,785,127		16,472,312		189,111		124,704				0
6. 固定資産売却収入		0		0				0				0
7. 基金特定預金取崩収入		22,090,488		18,257,527		2,420,378		1,412,583				0
8. 繰入金収入		0		3,072,195		9,079,718		13,100,500		△		25,252,413
当期収入合計(A)		230,221,625		189,243,469		47,078,152		19,152,417		△		25,252,413
前期繰越収支差額		61,346,002		46,695,590		10,016,404		4,634,008				0
収入合計(B)		291,567,627		235,939,059		57,094,556		23,786,425		△		25,252,413
II 支出の部												
1. 事業費		137,413,250		87,324,005		37,240,253		12,848,992				0
2. 管理費		79,704,148		71,671,607		1,874,706		6,157,835				0
3. 固定資産取得支出		817,425		817,425		0		0				0
4. 基本財産繰入金支出		1,000,000		1,000,000		0		0				0
5. 基金特定預金支出		11,039,588		10,412,209		421,852		205,627				0
6. 繰入金支出		0		22,180,218		2,881,448		190,747		△		25,252,413
7. 予備費		0		0		0		0				0
当期支出合計(C)		229,974,411		193,405,464		42,418,259		19,403,101		△		25,252,413
当期収支差額(A)-(C)		247,214		4,161,995		4,659,893		△				0
前期繰越収支差額(B)-(C)		61,593,216		42,533,595		14,676,297		4,383,324				0



## 正味財産増減計算書総括表

[ストック式]

平成18年1月1日から  
平成18年12月31日まで

科目	部門	計測自動制御学会合計	本部	部	部	合計	部門	合計	支	部	合計	(単位：円)
I	増加の部											
1	資産増加額	247,214	0			4,659,893		0				
	当期収支差額	13,104,227	12,229,634			5,081,745		205,527				
	資産増加額	1,600,000	1,600,000			0		0				
2	負債減少額	14,704,227	13,829,634			5,081,745		205,527				
	増加の部合計											
II	減少の部											
1	資産減少額	0	4,161,995			0		250,684				
	当期収支差額	25,207,162	25,511,476			2,420,378		1,687,987				
	資産減少額	30,642	30,642			0		0				
2	負債増加額	25,237,804	25,542,118			2,420,378		1,687,987				
	減少の部合計											
	当期正味財産増加額	△ 10,533,577	△ 11,712,484			2,661,367		△ 1,482,460				
	前期繰越正味財産額	313,725,859	244,462,686			38,824,079		30,439,094				
	期末正味財産合計額	303,192,282	232,750,202			41,485,446		28,956,634				

## 貸借対照表 総括表

平成 18 年 12 月 31 日 現在

(単位：円)

科目	部門	計測自動制御学会合計	本部	会	計	部	門	合	計	支	部	合	計
I	資産の部												
1	流動資産												
	流動資産合計	88,343,049	64,687,966		19,125,243				4,529,840				
2	固定資産												
(1)	基本財産												
	基本財産合計	19,000,000	19,000,000		0				0				
(2)	その他の固定資産												
	その他の固定資産合計	261,000,068	209,617,609		26,809,149				24,573,310				
	固定資産合計	280,000,068	228,617,609		26,809,149				24,573,310				
	資産合計	368,343,117	293,305,575		45,934,392				29,103,150				
II	負債の部												
1	流動負債												
	流動負債合計	26,749,833	22,154,371		4,448,946				146,516				
2	固定負債												
	固定負債合計	38,401,002	38,401,002		0				0				
	負債合計	65,150,835	60,555,373		4,448,946				146,516				
III	正味財産の部												
	正味財産	303,192,282	232,750,202		41,485,446				28,955,634				
	負債及び正味財産合計	368,343,117	293,305,575		45,934,392				29,103,150				



記念事業引当預金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金, 三菱東京 UFJ 銀行春日町支店 定期預金)	15,278,587
IT 化推進引当預金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金, みずほ銀行本郷支店 普通預金, 三菱東京 UFJ 銀行春日町支店 定期預金)	9,776,928
事務所営繕引当預金 (住友信託銀行東京営業部 普通預金)	3,357,922
出版基金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金, みずほ銀行本郷支店 定期預金, 普通預金)	19,610,242
国際交流振興基金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金, 三井住友銀行小石川支店 定期預金, 普通預金)	35,571,864
産学協同事業推進基金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金)	10,054,801
蓮沼賞基金 (住友信託銀行東京営業部 普通預金)	1,742,379
友田賞基金 (住友信託銀行東京営業部 普通預金)	1,506,803
武田賞基金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 普通預金)	21,741,925
預り保証金引当預金 (住友信託銀行東京営業部 定期預金, 信託預金, 普通預金)	5,000,000
計測部門調査研究会振興基金 (みずほ銀行本郷支店 定期預金, 普通預金)	1,733,885
制御部門未来開拓基金 (三菱東京 UFJ 銀行春日町支店 普通預金)	7,978,439
システム・情報部門 FAN シンポジウム基金 (三菱東京 UFJ 銀行春日町支店 定期預金)	756,766
システム・情報部門 SMC 国際交流基金 (三菱東京 UFJ 銀行春日町支店 普通預金)	0
システム・情報部門自律分散システム部会シンポジウム基金 (みずほ銀行本郷支店 定期預金)	401,205
システム・情報部門基盤創成基金 (みずほ銀行本郷支店 普通預金)	4,400,460
SI 部門インテグレーション基盤開拓基金 (みずほ銀行本郷支店 定期預金, 普通預金)	7,900,428
SI 部門インテグレーション戦略事業基金 (みずほ銀行本郷支店 普通基金)	2,000,191
産業応用部門産業振興活動支援基金 (みずほ銀行本郷支店 普通基金)	1,637,775
北海道支部学術活動推進基金 (北洋銀行 北七条支店 普通預金)	1,705,258
東北支部記念事業基金 (七十七銀行 南八木山支店 普通預金)	209,016
中部支部記念事業基金 (三井住友銀行 本山支店 定期預金)	2,552,716
中部支部支部賞事業基金	1,502,169

(三井住友銀行 本山支店 定期預金)			
北陸支部学術活動推進基金	3,100,918		
(通常郵便貯金)			
関西支部記念事業基金	7,064,750		
(りそな銀行 梅田支店 普通預金)			
中国支部学術講演会振興基金	2,406,540		
(定額郵便貯金)			
中国支部産学交流振興基金	2,845,216		
(通常郵便貯金)			
四国支部講演会基金	1,470,086		
(四国銀行 山田支店 普通預金)			
九州支部奨励賞基金	462,209		
(福岡銀行 箱崎支店 普通預金)			
九州支部学術活動推進基金	1,200,570		
(福岡銀行 箱崎支店 普通預金)			
その他の固定資産合計	261,000,068		
固定資産合計		280,000,068	
資産合計			368,343,117
<b>II. 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未払金	12,431,883		
(会誌・論文集 11,12月号, 部門・支部事業費, 一般会計繰入金, 消費税相当額等)			
前受金	3,496,710		
(19年度会費・論文集代予納分, 次年度事業参加費分)			
預り金	9,954,663		
(社会保険料・源泉徴収税預り分, IFAC口座, 連合講演会口座等)			
仮受金	866,577		
(返金, 保留分等)			
流動負債合計		26,749,833	
<b>2. 固定負債</b>			
退職給与引当金	33,401,002		
預り保証金	5,000,000		
(広告料保証金)			
固定負債合計		38,401,002	
負債合計			65,150,835
正味財産			303,192,282

## 証 明 書

社団法人 計測自動制御学会における平成18年度収支計算書および財産目録は、監査の結果、事実と相違ないことを証明します。

平成19年2月7日

(社)計測自動制御学会 監事 水 野 直 樹 ⑩

(社)計測自動制御学会 監事 西 義 和 ⑩

(社)計測自動制御学会 監事 吉 澤 誠 ⑩

## 証 明 書

社団法人 計測自動制御学会の平成18年12月31日現在における資産総額は368,343,117円であることを証明します。

平成19年2月7日

(社)計測自動制御学会 監事 水 野 直 樹 ⑩

(社)計測自動制御学会 監事 西 義 和 ⑩

(社)計測自動制御学会 監事 吉 澤 誠 ⑩

## 収 支 計 算 書

平成 18 年 1 月 1 日 から

平成 18 年 12 月 31 日 まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 収入の部				
基本財産運用収入				
基本財産運用収入	12,000	16,114	△ 4,114	
小 計	12,000	16,114	△ 4,114	
会費収入				
正会員会費収入	72,600,000	72,510,000	90,000	
学生会員会費収入	3,575,000	3,121,200	453,800	
賛助会員会費収入	21,200,000	20,525,600	674,400	
小 計	97,375,000	96,156,800	1,218,200	
事業収入				
広告収入	7,500,000	6,946,680	553,320	
論文集収入	32,000,000	36,346,365	△ 4,346,365	
産業論文収入	350,000	160,000	190,000	
委員会事業収入	350,000	2,348,000	△ 1,998,000	
総会懇親会収入	100,000	94,000	6,000	
計測制御エンジニア収入	250,000	504,000	△ 254,000	
プロセス塾収入	0	1,750,000	△ 1,750,000	
海外渡航者費用負担分収入	1,000,000	0	1,000,000	
規格調査収入	200,000	0	200,000	
会誌論文集収入	10,000,000	9,184,476	815,524	
教材 (CD)頒布収入	400,000	283,000	117,000	
小 計	51,800,000	55,268,521	△ 3,468,521	
寄付金収入				
小 計	0	0	0	
雑収入				
受取利息	50,000	113,806	△ 63,806	
日本工学会年金収入	45,000	43,526	1,474	
国際会議分配金収入	0	9,476,273	△ 9,476,273	
雑収入	7,000,000	6,838,707	161,293	
小 計	7,095,000	16,472,312	△ 9,377,312	
固定資産売却収入				
小 計	0	0	0	
特定預金取崩収入				
退職給与引当預金取崩収入	1,600,000	1,600,000	0	
IT化推進引当預取崩収入	16,752,000	13,308,835	3,443,165	
事務営繕引当預金取崩収入	0	512,799	△ 512,799	
出版基金取崩収入	5,000,000	0	5,000,000	
国際交流振興基金取崩収入	1,200,000	1,215,335	△ 15,335	
蓮沼賞基金取崩収入	120,000	105,000	15,000	
友田賞基金取崩収入	120,000	126,000	△ 6,000	
武田賞基金取崩収入	120,000	21,000	99,000	
横断型基幹科学取崩収入	0	1,368,558	△ 1,368,558	
小 計	24,912,000	18,257,527	6,654,473	
繰入金収入				
繰入金収入(国際会議剰余)	1,000,000	0	1,000,000	
特別会計繰入金収入(部門)	5,420,210	3,072,195	2,348,015	
支部からの収入	0	190,747	△ 190,747	
部門からの収入	4,593,300	2,724,648	1,868,652	
消費税相当額、その他	826,910	156,800	670,110	



## 収 支 計 算 書

平成 18 年 1 月 1 日 から

平成 18 年 12 月 31 日 まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
小 計	6,420,210	3,072,195	3,348,015	
当期収入合計 (A)	187,614,210	189,243,469	△ 1,629,259	
前期繰越収支差額	46,695,590	46,695,590	0	
収入合計 (B)	234,309,800	235,939,059	△ 1,629,259	

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
II 支出の部				
事業費				
会誌発行費	39,550,000	40,850,403	△ 1,300,403	
印刷費	24,400,000	24,782,605	△ 382,605	
通信運搬費	7,400,000	7,488,451	△ 88,451	
原稿料	1,100,000	1,382,982	△ 282,982	
会誌編集委員会編集費	6,650,000	7,196,365	△ 546,365	
論文集発行費	17,000,000	19,805,705	△ 2,805,705	
印刷費	10,200,000	12,234,311	△ 2,034,311	
通信運搬費	2,200,000	2,087,061	112,939	
論文集編集委員会編集費	4,600,000	5,484,333	△ 884,333	
産業論文発行費	600,000	531,781	68,219	
委員会事業費	5,950,000	6,865,832	△ 915,832	
広報活動費	100,000	0	100,000	
SICE Week費	250,000	54,392	195,608	
総会懇親会費	250,000	250,000	0	
計測制御エンジニア費	250,000	459,754	△ 209,754	
国際委員会活動費	950,000	1,466,175	△ 516,175	
会員委員会活動費	150,000	150,037	△ 37	
事業委員会活動費	500,000	250,720	249,280	
教育認定委員会活動費	200,000	273,018	△ 73,018	
企画委員会活動費	2,100,000	862,415	1,237,585	
TF活動費	200,000	1,368,558	△ 1,168,558	
支部協議会活動費	1,000,000	1,050,405	△ 50,405	
プロテス塾委員会活動費	0	680,358	△ 680,358	
海外渡航調査費	1,000,000	0	1,000,000	
規格調査費	200,000	0	200,000	
学術交流会合費	200,000	66,202	133,798	
共催事業分担金	900,000	1,119,368	△ 219,368	
フェロ-関係費	150,000	220,480	△ 70,480	
学会賞費	3,900,000	4,021,564	△ 121,564	
事業運営IT化推進費	16,752,000	12,341,250	4,410,750	
電子アーカイブ作成費	5,000,000	0	5,000,000	
支払消費税等	1,700,000	1,267,100	432,900	
事業未収金回収不能額	300,000	234,320	65,680	
小 計	93,202,000	87,324,005	5,877,995	
管理費				
人件費	44,850,000	45,646,031	△ 796,031	
給与手当	33,900,000	33,806,547	93,453	
福利厚生費	5,500,000	5,754,345	△ 254,345	
事務処理費	5,450,000	6,085,139	△ 635,139	
旅費交通費	2,000,000	1,937,716	62,284	
通信運搬費	3,100,000	3,138,641	△ 38,641	
消耗品費	2,350,000	3,198,902	△ 848,902	
印刷製本費	550,000	331,458	218,542	
事務所費	3,800,000	3,988,558	△ 188,558	
修繕費	0	18,900	△ 18,900	
総会費	1,600,000	1,711,651	△ 111,651	
理事会費	2,000,000	2,617,173	△ 617,173	
会議費	500,000	167,250	332,750	
OA関係諸雑費	1,400,000	1,146,558	253,442	
公認会計士謝礼	530,000	525,000	5,000	
雑費	500,000	1,104,933	△ 604,933	

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
退職手当	1,600,000	1,600,000	0	
日本工学会年会費	10,100	12,185	△ 2,085	
会費自動引落費	550,000	514,621	35,379	
OA機器購入費	50,000	0	50,000	
会費還元費	100,000	80,830	19,170	
会費未収金回収不能額	3,000,000	3,931,200	△ 931,200	
小 計	68,490,100	71,671,607	△ 3,181,507	
固定資産取得支出				
什器備品購入支出	400,000	817,425	△ 417,425	
小 計	400,000	817,425	△ 417,425	
基本財産繰入金支出				
基本財産繰入支出	1,000,000	1,000,000	0	
小 計	1,000,000	1,000,000	0	
特定預金支出				
退職給与引当預金支出	19,000	30,642	△ 11,642	
記念事業引当預金支出	4,000	5,026	△ 1,026	
IT化推進引当預金支出	12,000	9,058	2,942	
事務所管繕引当預金支出	500,100	500,605	△ 505	
出版基金支出	15,500	354,744	△ 339,244	
国際交流振興基金支出	503,500	9,485,060	△ 8,981,560	
産学協同事業推進基金支出	8,500	9,310	△ 810	
蓮沼賞基金支出	100	290	△ 190	
友田賞基金支出	100	256	△ 156	
武田賞基金支出	12,000	16,681	△ 4,681	
横断型基幹科学基金支出	100	537	△ 437	
小 計	1,074,900	10,412,209	△ 9,337,309	
繰入金支出				
支部への支出	13,269,600	13,060,500	209,100	
部門への支出	9,500,000	9,008,218	491,782	
事業未回収不能引当支出	50,000	111,500	△ 61,500	
小 計	22,819,600	22,180,218	639,382	
予備費	500,000	0	500,000	
当期支出合計(C)	187,486,600	193,405,464	△ 5,918,864	
当期収支差額(A)-(C)	127,610	△ 4,161,995	4,289,605	
次期繰越収支差額(B)-(C)	46,823,200	42,533,595	4,289,605	

## 正味財産増減計算書

平成18年1月1日から

平成18年12月31日まで

[ストック式]

(単位：円)

科	目	金	額
I	増加の部		
1	資産増加額		
	基本財産預金増加額	1,000,000	
	什器備品購入額	817,425	
	退職給与引当預金増加額	30,642	
	記念事業引当預金増加額	5,026	
	IT化推進引当預金増加額	9,058	
	事務所営繕引当預金増加額	500,605	
	出版基金増加額	354,744	
	国際交流振興基金増加額	9,485,060	
	産学協同事業推進基金増加額	9,310	
	蓮沼賞基金増加額	290	
	友田賞基金増加額	256	
	武田賞基金増加額	16,681	
	横断型基幹科学基金増加額	537	
	資産増加額		12,229,634
2	負債減少額		
	退職給与引当金取崩額	1,600,000	
	負債減少額		1,600,000
	増加の部合計		13,829,634
II	減少の部		
1	資産減少額		
	当期収支差額	4,161,995	
	建物減価償却額	2,385,943	
	什器備品減価償却額	706,011	
	退職給与引当預金取崩額	1,600,000	
	IT化推進引当預金取崩額	13,308,835	
	事務所営繕引当預取崩額	512,799	
	国際交流振興基金取崩額	1,215,335	
	蓮沼賞基金取崩額	105,000	
	友田賞基金取崩額	126,000	
	武田賞基金取崩額	21,000	
	横断型基幹科学基金取崩額	1,368,558	
	資産減少額		25,511,476
2	負債増加額		
	退職給与引当金繰入額	30,642	
	負債増加額		30,642
	減少の部合計		25,542,118
	当期正味財産増加額		△ 11,712,484
	前期繰越正味財産額		244,462,686
	期末正味財産合計額		232,750,202

## 貸 借 対 照 表

平成 18 年 12 月 31 日 現在

(単位：円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	46,292,251	
未収金	15,877,089	
前払金	40,000	
立替金	1,188,720	
仮払金	1,289,906	
流動資産合計		64,687,966
2 固定資産		
基本財産		
基本財産信託預金	19,000,000	
基本財産合計	19,000,000	
その他の固定資産		
建物	88,000,000	
建物減価償却累計額	△ 37,364,979	
什器備品	15,061,020	
什器備品減価償却累計額	△ 13,120,885	
退職給与引当預金	33,401,002	
記念事業引当預金	15,278,587	
IT化推進引当預金	9,776,928	
事務所管轄引当預金	3,357,922	
出版基金	19,610,242	
国際交流振興基金	35,571,864	
産学協同事業推進基金	10,054,801	
蓮沼賞基金	1,742,379	
友田賞基金	1,506,803	
武田賞基金	21,741,925	
預り保証金引当預金	5,000,000	
その他の固定資産合計	209,617,609	
固定資産合計		228,617,609
資産合計		293,305,575
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	8,544,246	
前受金	3,356,710	
預り金	9,921,443	
仮受金	331,972	
流動負債合計		22,154,371
2 固定負債		
退職給与引当金	33,401,002	
預り保証金	5,000,000	
固定負債合計		38,401,002
負債合計		60,555,373

## 貸 借 対 照 表

平成 18 年 12 月 31 日 現在

(単位：円)

科 目	金 額	
Ⅲ 正味財産の部		
正味財産		232,750,202
(うち基本金)		( 19,000,000)
(うち当期正味財産増加)		(△ 11,712,484)
負債及び正味財産合計		293,305,575



## 計算書類に対する注記（平成18年度一般会計）

### 1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却について

建物及び什器備品の減価償却は、法人税法に定める定率法によっている。

(2) 引当金の計上基準について

退職給与引当金は、期末要支給額を計上している。

(3) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、立替金、仮払金、未払金、前受金、預り金及び仮受金を含めている。

### 2. 基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
定期および信託預金	18,000,000	1,000,000		19,000,000
合計（基本金）	18,000,000	1,000,000		19,000,000

### 3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	48,149,357	46,292,251
未収金	17,719,212	15,877,089
前払金	0	40,000
立替金	835,230	1,188,720
仮払金	3,135,427	1,289,906
合計	69,839,226	64,687,966
未払金	10,303,532	8,544,246
前受金	2,113,960	3,356,710
預り金	8,637,172	9,921,443
仮受金	2,088,972	331,972
合計	23,143,636	22,154,371
次期繰越収支差額	46,695,590	42,533,595

### 4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	88,000,000	37,364,979	50,635,021
什器備品	15,061,020	13,120,885	1,940,135
合 計	103,061,020	50,485,864	52,575,156



## 平成 18 年度一般会計引当預金明細

平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

収 入	退職給与引当預金		支 出
前期繰越	34,970,360 円	退職金 (岩瀬正)	1,600,000 円
受取利息	30,642		
		次期繰越	33,401,002
合 計	35,001,002	合 計	35,001,002

(単位：円)

収 入	記念事業引当預金		支 出
前期繰越	15,273,561 円		円
受取利息	5,026		
		次期繰越	15,278,587
合 計	15,278,587	合 計	15,278,587

(単位：円)

収 入	IT化推進引当預金		支 出
前期繰越	23,076,705 円	学会モデル開発費	10,152,000 円
受取利息	9,058	会計用サーバー・ソフト更新購入費	3,006,675
		論文集 IT化 WG 活動費	149,320
		通信費	840
		次期繰越	9,776,928
合 計	23,085,763	合 計	23,085,763

(単位：円)

収 入	事務所営繕引当預金		支 出
前期繰越	3,370,116 円	会議室備品費	511,959 円
今年度繰入	500,000	通信費	840
受取利息	605		
		次期繰越	3,357,922
合 計	3,870,721	合 計	3,870,721

(単位：円)

収 入	預り保証金引当預金		支 出
前期繰越	5,000,000 円		円
		次期繰越	5,000,000
合 計	5,000,000	合 計	5,000,000

注) 欄中外より広告料保証金として預っている。

## 平成 18 年度一般会計基金明細

平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

収 入	出 版 基 金	支 出
前期繰越	19,255,498 円	円
印税収入	231,985	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・信号処理 71,936</li> <li>・システム制御のためのマトリクス理論 59,976</li> <li>・システムのモデリングとシミュレーション 39,484</li> <li>・ロボット制御の実際 26,989</li> <li>・システム工学 33,600</li> </ul>		
先端学術シリーズ頒布収入	4,600	
ビデオ講座頒布収入	98,000	
受取利息	20,159	
		次期繰越 19,610,242
合 計	19,610,242	合 計 19,610,242

(単位：円)

収 入	国 際 交 流 振 興 基 金	支 出
前期繰越	27,302,139 円	円
国際会議剰余金等繰入	9,468,055	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・SICE-ICCAS2006 9,459,837</li> <li>・ISADS2005 8,218</li> </ul>		
受取利息	17,005	
		国際会議資金貸与 353,490 円 ( ・IROS2007 )
		国際委員会活動費 33,600 (SICE-ICCAS2006 感謝状楯)
		国際会議職員出張費 708,735 ( ・SICE-ICCAS2006 )
		国際会議賞金支援費 117,830 ( ・IROS2007 )
		通信費 1,680
		次期繰越 35,571,864
合 計	36,787,199	合 計 36,787,199

(単位：円)

収 入	産 学 協 同 事 業 推 進 基 金	支 出
前期繰越	10,045,491 円	円
受取利息	9,310	
		次期繰越 10,054,801
合 計	10,054,801	合 計 10,054,801

(単位：円)

蓮 沼 賞 基 金			
収 入		支 出	
前期繰越 受取利息	1,847,089 円 290	個人賞賞牌	105,000 円
		次期繰越	1,742,379
合 計	1,847,379	合 計	1,847,379

(単位：円)

友 田 賞 基 金			
収 入		支 出	
前期繰越 受取利息	1,632,547 円 256	個人賞賞牌	126,000 円
		次期繰越	1,506,803
合 計	1,632,803	合 計	1,632,803

(単位：円)

武 田 賞 基 金			
収 入		支 出	
前期繰越 受取利息	21,746,244 円 16,681	個人賞賞牌	21,000 円
		次期繰越	21,741,925
合 計	21,762,925	合 計	21,762,925